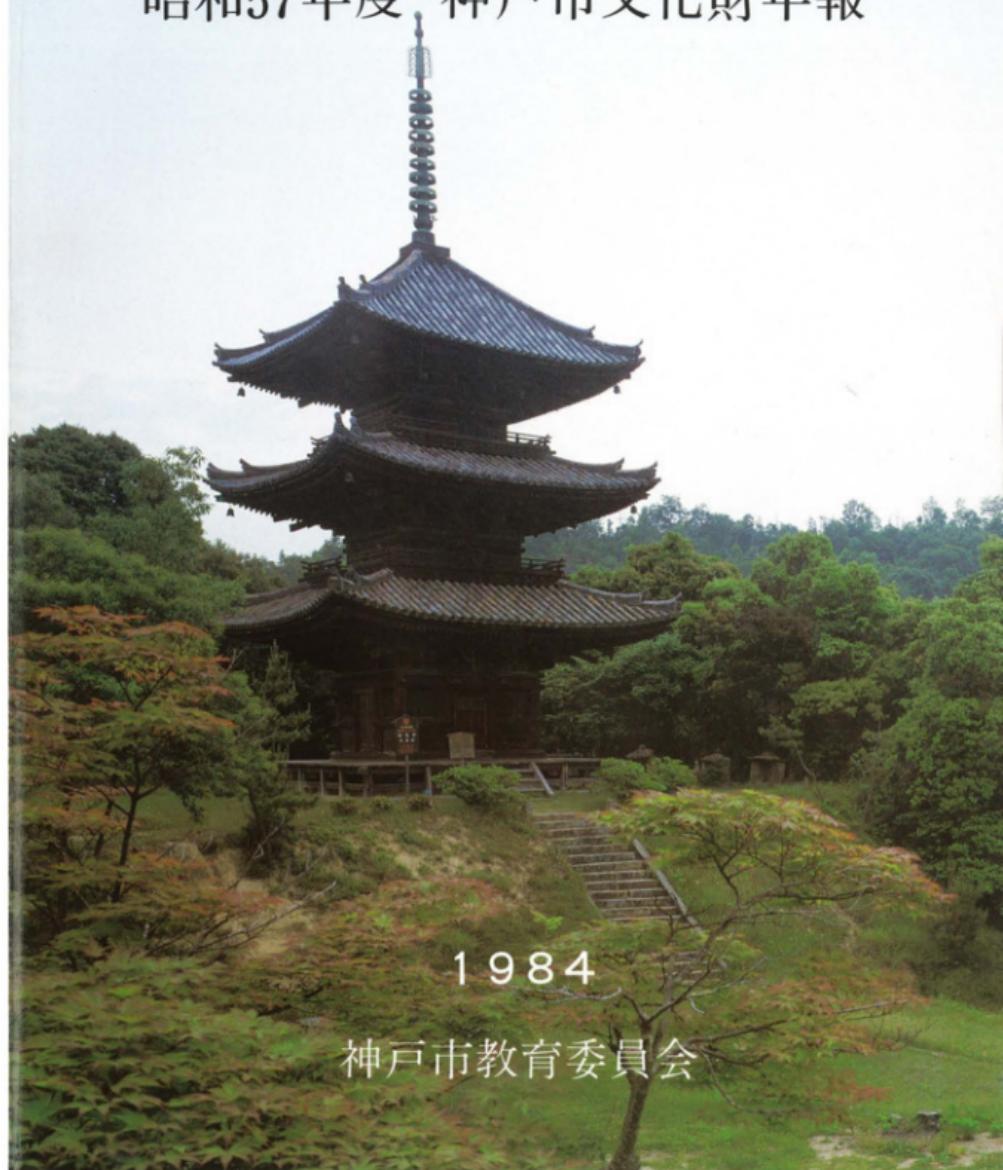


# 昭和57年度 神戸市文化財年報



1984

神戸市教育委員会

昭和57年度 神戸市文化財年報  
正 誤 表

頁	行	誤	正
挿図目次	fig. 7	S K O I	S K O I
"	fig. 54	(東から)	(東から)
例言	上から19行目	奈良国立文化財研究	奈良国立文化財研究所
1	下から2行目	東面と北面・面	東面全面と北面
4	下から6行目	本部補修	木部補修
10	13史跡五色塚古墳	垂水区 色山	垂水区五色山
26	上から5行目	明石川の石岸	明石川の右岸
38	上から15行目	周壁高	周壁溝
39	上から11行目	平坦	平坦
"	上から14行、18行目	同濠	周濠
"	上から20行目	堆積	堆積
"	下から9行目	外堤	外堤
40	上から3行目	平坦	平坦
"	上から7行、8行目	明僚	明瞭
"	下から14行目	堀り込まれ	掘り込まれ
46	下から9行、10行目	堆積	堆積
48	上から15行目	70°~80°	70°~80°
50	下から4行目	方形周構墓	方形周溝墓
52	上から4行目	雨提地区	雨堤地区

# 昭和57年度 神戸市文化財年報

1984

神戸市教育委員会

1. 塗り替え後の船屋形



2. 修理後の洋館長屋



3. 修理後のサッスーン邸



4. 車の翁舞



5. 文化環境保存区域  
徳光院及びその周辺



6. 如意寺総合防災施設設置  
ポンプ室



## 序

神戸市教育委員会では、昭和57年度職制改正を行ない、文化財を担当する課として、文化財課を発足させ、新たな陣容で文化財の保護、保存事業を意欲的に進めてまいりました。

文化財関係では、如意寺の総合防災施設の設置や北野町・山本通の伝統的建造物群の保存整備などを主たる事業とし、埋蔵文化財関係では、史跡処女塚古墳の保存整備や開発に伴う緊急発掘調査事業を実施してまいりました。

ここに、その成果を昭和57年度神戸市文化財年報としてまとめました。この年報がいささかなりとも活用して頂ければさいわいです。

最後になりましたが、事業の実施にあたり、御協力を賜わった関係各位に深く感謝いたします。

昭和59年3月

神戸市教育長 山 本 治 郎



## 目 次

### 序 例 言

I. 神戸市の文化財行政	1
II. 昭和57年度文化財事業概要	1
1. 文化財保護	1
2. 文化財啓発	2
3. 文化財保存区域の保存育成	4
4. 町並み保存	4
5. 民俗芸能伝承団体の育成	6
III. 昭和57年度埋蔵文化財事業概要	7
昭和57年度神戸市文化財事業実施地区位置図	11
1. 西神ニュータウン内遺跡	17
西神第33地点遺跡	17
西神第62地点B遺跡	18
2. 西神中央線長谷遺跡	20
3. 如意寺跡	22
4. 神出古窯址群	25
5. 西戸田遺跡	26
6. 小寺遺跡	27
7. 頤高山遺跡	28
8. 居住遺跡	30
9. 居住・小山遺跡	32
10. 今津遺跡	34
11. 新方遺跡	36
12. 新方丁の坪遺跡	38
13. 史跡五色塚古墳	39
14. 舞子古墳群東石ヶ谷1号墳	40
15. 宇治川南遺跡	42
16. 史跡処女塚古墳	44
17. 郡家遺跡	46
18. 東求女塚古墳	48
19. 森北町遺跡	50
20. 北神ニュータウン内遺跡	52
第47地点遺跡	52
鹿の子遺跡	54
21. オキダ古墳群	56
22. 日下部遺跡	58
23. 塩田遺跡	59

## カラー図版目次

1. 塗り替え後の船屋形
2. 修理後の洋館長屋
3. 修理後のサッスーン邸
4. 車の翁舞
5. 文化環境保存区域 徳光院及びその周辺
6. 如意寺総合防災施設設置 ボンブ室

## 挿図目次

fig. 1	史跡処女塚古墳環境整備実施図	8
fig. 2	西神第33-1号墳（手前）より33-3A、33-3B 号墳をのぞむ	17
fig. 3	古墳時代竪穴住居址（西から）	19
fig. 4	鎌倉時代掘立柱建物（西から）	19
fig. 5	古墳時代掘立柱建物（西から）	19
fig. 6	西神中央線長谷遺跡全景（南から）	21
fig. 7	短辺中央に突出部のある土括SKOI（東から）	21
fig. 8	土括SKO2（左）とその突出部（右）（東から）	21
fig. 9	如意寺境内（南から）	23
fig. 10	基壇建物（西から）	23
fig. 11	瓦窯（南から）	23
fig. 12	左、池ノ下支群3号窯（北から）右、堂ノ前支群2号窯（南から）	25
fig. 13	池ノ下支群2号窯（北から）	25
fig. 14	堂ノ前支群4号窯（南から）	25
fig. 15	頭高山遺跡遠景	28
fig. 16	竪穴住居址1（東から）	29
fig. 17	竪穴住居址4（東から）	29
fig. 18	石鍬	29
fig. 19	石鍬（左はしは磨製石鍬）	29
fig. 20	磨製石剣	29
fig. 21	柱状片刃石斧	29
fig. 22	大型船形石斧	29
fig. 23	調査区全景（北から）	31
fig. 24	掘立柱建物（北から）	31
fig. 25	土師器高环出土状況（溝内）	31
fig. 26	須恵器出土状況	31
fig. 27	A地区全景	33
fig. 28	B地区3号墳	33
fig. 29	第2トレンチ弥生時代中期住居址（西から）	35
fig. 30	第2トレンチ土器棺（南から）	35

fig. 31	第2トレンチ落ちこみ1（南から）	35
fig. 32	古墳時代遺構検出状況（北から）	37
fig. 33	弥生時代遺構検出状況（北から）	37
fig. 34	弥生時代木棺墓検出状況（東から）	37
fig. 35	滑石製勾毛、白玉、管玉	37
fig. 36	勾玉製作工程	37
fig. 37	古墳と弥生時代住居址全景（南から）	41
fig. 38	弥生時代住居址全景（北から）	41
fig. 39	石室内炭敷検出状況（南から）	41
fig. 40	玄室内遺物出土状況	41
fig. 41	宇治川南遺跡遠景	43
fig. 42	弥生時代集石遺構、溝	43
fig. 43	弥生時代木棺墓	43
fig. 44	前方部西側斜面全景（北から）	45
fig. 45	前方部西側下段根石列	45
fig. 46	前方部東側下段根石列	45
fig. 47	調査地全景（北から）	47
fig. 48	調査地全景（南から）	47
fig. 49	掘立柱形形	47
fig. 50	方形周溝南隅土器出土状況	47
fig. 51	東求女塚古墳全景（上方の円形の木立が後円部の一部）	49
fig. 52	東求女塚古墳前方部西側墳丘裾と周濠	49
fig. 53	調査地全景（東から）	51
fig. 54	溝1（東から）	51
fig. 55	溝4、土器出土状況	51
fig. 56	火葬墓S T 1	53
fig. 57	火葬墓S T 3	53
fig. 58	火葬墓S T 9、10	53
fig. 59	火葬墓S T 11	53
fig. 60	火葬墓S T 23	53
fig. 61	火葬墓S T 31	53
fig. 62	火葬墓S T 33	53
fig. 63	火葬墓S T 37	53
fig. 64	調査地全景（西から）	55
fig. 65	東部柱穴群（北から）	55
fig. 66	土壤墓（東から）	55
fig. 67	オキダ2号墳石室全景（東から）	57
fig. 68	オキダ2号墳石室全景（西から）	57
fig. 69	オキダ2号墳石室近景（北から）	57

## 例　　言

1. 本書は昭和57年度に神戸市教育委員会が実施した文化財事業の概要をまとめたものである。
2. 事業に関わる組織表は別に示した。
3. 本書に用いた地図は、神戸市立中学校教育研究会社会科研究部編集の5万分の1神戸市全図である。
4. 昭和57年度文化財事業位置図のアルファベットは下記の文化財事業実施地を示し、数字は、9～10頁の一覧表遺跡名を示している。

A	文化環境保存区域	白鶴美術館及びその周辺	
B	タ	タ	徳光院及びその周辺
C	タ	タ	福祥寺（須磨寺）及びその周辺
D	タ	タ	太山寺及びその周辺
E	タ	タ	如意寺及びその周辺
F	タ	タ	無動寺・若王寺神社及びその周辺
G	タ	タ	八幡神社及びその周辺
H	タ	タ	石峯寺及びその周辺
I			南僧尾観音堂
J			北野町、山本通伝統的建造物群保存地区

5. 本年度事業の実施にあたっては、下記の機関の指導と協力を得た。

文化庁、奈良国立文化財研究、兵庫県教育委員会

### 昭和57年度神戸市教育委員会文化財課組織表

#### 神戸市文化財専門委員

熱田 公（史跡・書籍）	神戸大学教授
小林行雄（史跡・考古）	京都大学名誉教授
横上重光（考古）	神戸新聞社副主筆
野地脩左（建築）	神戸大学名誉教授
浜田秀男（名勝天然記念物） （植物）	親和女子大学教授
藤田和夫（名勝天然記念物） （地質・鉱物）	大阪市立大学教授
毛利 久（絵画・彫刻・工芸）	奈良大学教授

#### 事務局

教育長 山本治郎

社会教育部長 太田修治

文化財課長 八尾 明

#### 文化財係

係長 中村敏也

前田真一

門間賛二

大東 啓

上木 功

#### 埋蔵文化財係

係長 奥田哲通

宮本郁雄

口野博史

丸山 潔

森田 稔

西岡巧次

丹治康明

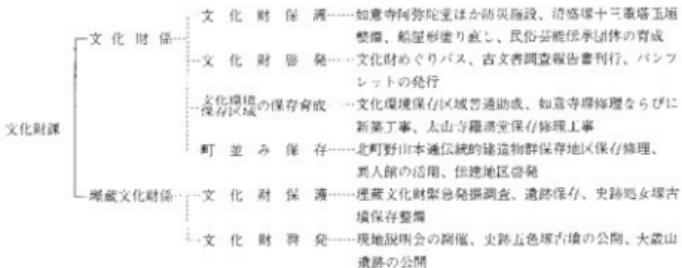
渡辺伸行

千種 浩

菅本宏明

## I. 神戸市の文化財行政

神戸市では、昭和57年度に文化財担当課の職制改正が行われ、これまでの文化課から文化財、埋蔵文化財の2係をもとに新たに文化財課が発足した。文化財係は、指定文化財の保存修理や市内中央区北野町・山本通の伝統的建造物群保存地区の保存整備と異人館の活用など埋蔵文化財以外の文化財を担当し、埋蔵文化財係は、埋蔵文化財の緊急發掘調査とその保存、史跡の保存整備と公開など埋蔵文化財に係る業務を担当した。昭和57年度の担当業務内容は、下記の表に示すとおりである。



## II. 昭和57年度文化財事業概要

文化財係では、文化財保護、文化財啓発、文化環境保存区域の保存育成、町並み保存、民俗芸能伝承団体の育成を行っている。昭和57年度に行った事業は以下のとおりである。

### 1. 文化財保護

#### 如意寺阿弥陀堂ほか防災施設設置

放水銃・消防栓及びそのためのポンプ室、避雷針・避雷導体をつけて、火災に備える。今年度は、全体工事のうち、貯水槽とポンプ室の工事を行った。施工に先立ち、ポンプ室の場所は、発掘調査を実施した。

#### 清盛塚十三重塔玉垣整備

清盛塚北境界玉垣が崩壊したままになっており、十三重塔の管理上問題があるため、整備を行った。

#### 船屋形塗り直し

東面と北面・面・西面・南面の一部について、春慶塗替を、<sup>註1</sup> 東面・西面全面と北面・南面の一部について、漆拭立を行った。<sup>註2</sup>

註1 春度塗 素地を着色し、透明の漆を上塗して、漆膜を通して木地を現わしたもの

註2 扱立 漆に漆分を補給すること

### 南僧尾観音堂覆屋根修理

茅屋根の全面葺替を行うが、今年度はそのうち、破損した茅の取除し、及び下地の補修を行った。

### 昭和57年度文化財保護事業一覧

事業名稱	所在地	事業主体	工事期間	施工
		設計監理 施工		
如意寺阿弥陀堂 ほか防災施設	西区熊谷町 谷口259	如意寺 株式会社共設機設計事務所 恒慶株式会社	昭和57年11月27日～ 58年3月31日 (昭和57年度から 58年度までの 2か年継続事業)	昭和27年7月19日 阿弥陀堂、文殊堂、三重塔 国指定重要文化財(建造物)
清盛塚十三重塔 下堀 整備	兵庫区大切町1	宮崎委託工事 委託先 住北局奈良郡宇校建設課 石元石材工業株式会社	昭和57年12月4日～ 58年3月15日	所有 神戸市教育委員会 平家由緒寺院会より 土岡6本寄付
船屋形 漆塗り直し	中央区中山手通 5丁目3-1 松栄園内	神戸市 株式会社 網川社寺工藝社	昭和58年3月22日～ 58年3月31日 (昭和57年度から 58年度までの 2か年継続事業)	昭和28年8月29日 国指定重要文化財(建造物)
南僧尾観音堂 覆屋根修理	北区浜田町 南僧尾560	南僧尾区 株式会社 栄豊設計工務店 藤原 静昭	昭和58年2月15日～ 58年3月31日 (昭和57年度から 58年度までの 2か年継続事業)	昭和48年3月19日 県指定重要有形文化財 (建造物)

## 2. 文化財啓発

### 文化財めぐりバス

市内の文化財を広く知ってもらい、文化財についての理解を深めてもらうために、毎年バスによる文化財めぐりを実施している。今年度は「北区の文化財をたずねて」をテーマに、石峯寺・箱木千年家・無動寺・若王寺神社・下谷上農村歌舞伎舞台を訪れた。5月10日、47名、12日、46名、14日、45名、計138名の参加があった。

### 古文書調査報告書刊行

#### 『神戸市文献史料』第五卷

本書は前巻に續いて、兵庫津本藩浜本陣であるとともに、南浜の名主でもあった安田家文書から収載した。

(目録編) 安田家所蔵文書のうち、到來状としてまとめられている部分を掲げた。

(史料編) 前巻には主に浜本陣としての宿泊業務を収載したが、本書ではそのほかに、浜本陣の多くが加わっていた兵庫諸問屋の動き（株仲間の結成・神戸村柴屋庄左衛門との他国船引請争論・口銭高一覧など）、熊本藩廻米船一覧など、浜本陣の商業的活動という面からみてみるとともに、南浜氏神に関する争論、兵庫津各町人口、兵庫沖難船処理、和田崎船入港警計画、兵庫中村屋猪兵衛持船栄寿丸船頭善助漂流記など、広く近世兵庫の諸側面をもうかがわせる史料を収録した。

調査担当 神戸史学会古文書調査班

調査年度 昭和54年度

印刷部数 1,000部（有償頒布 800部）

規 格 A5版、253ページ、写真14点

頒布価格 1部 2,500円

頒布場所 文化財課・市立博物館・インフォメーションこうべ

#### 『兵庫岡方文書』第二編第二巻

岡方文書の調査整理作業を通じて、解読できた部分を集めた。さらに旧兵庫津のうち、北浜会所の記録（鷲尾家蔵）をもあわせ掲載した。前半は、兵庫津地方の天和元年の検地帳で、年代は異なるが、さきの慶長7年の兵庫屋地子帳とあわせて、地方と地子方がそろうことになろう。後半は、元治元年・慶応元年という幕末政治情勢の切迫した時期にかかる北浜会所の記録で、將軍家茂の再度の上洛、禁門の変、そして長州征伐へと動く情況が、兵庫を通る艦や人の様子を通してよく伝えられている。

調査担当 神戸史学会古文書調査班

印刷部数 800部（有償頒布600部）

規 格 A5版、698ページ、写真16点

頒布価格 1部 3,000円

頒布場所 文化財課・市立博物館・インフォメーションこうべ

#### パンフレットの発行

##### 「異人館パンフレット」

北野町にある3つの異人館（風見鶏の館・白い異人館・ラインの館）を紹介した異人館パンフレットを、今年度も100,000部増刷した。（1部200円、異人館内で販売）。

##### 「相楽園文化財パンフレット」

相楽園にある重要文化財、旧ハッサム住宅・旧小寺家庭舎・船屋形を紹介した文化財パンフレットを作成した。（10,000部、1部100円、相楽園で販売）

これは、旧ハッサム住宅・旧小寺家廃舎の旧パンフレットと、船形屋の旧パンフレットの改訂版として、1つにまとめたものである。

### 3. 文化環境保存区域の保存育成

#### 文化環境保存区域

市内の歴史的環境、文化的遺産などを保存するため、特定の地域を文化環境保存区域として指定し、区域内での一定の開発行為の制限や保存助成金の交付により、これを守り育てていく。また、文化財として価値の高い建造物を、歴史的建造物に特定し、保存修理している。

指定区域 8か所

白鶴美術館周辺区域（昭和49年指定）無動寺周辺区域（昭和49年指定）  
徳光院周辺区域（昭和49年指定）六條八幡神社周辺区域（昭和50年指定）  
須磨寺周辺区域（昭和49年指定）太山寺周辺区域（昭和50年指定）  
石峯寺周辺区域（昭和49年指定）如意寺周辺区域（昭和50年指定）

#### 普通助成

普通助成金は、文化環境保存区域の良好な環境を維持育成するために設けられたもので、管理会の申請に基づき、毎年年度末に管理会に交付している。対象は、文化環境保存区域内の土地である。

#### 特別助成

如意寺塀修理ならびに新築工事

文殊堂の既設土塀が崩れかかっていたため、これを解体し、塀のなかった所には、ブロック塀を新設し修景した。

所在地 西区櫛谷町谷11259

事業主体 如意寺

施工 工 株式会社 柴田設計工務店

工事期間 昭和58年2月15日～58年3月31日

（昭和57年度から58年度までの2か年継続事業）

#### 歴史的建造物の修理

太山寺羅漢堂保存修理工事

羅漢堂の解体・本部補修と、屋根葺替・壁塗りの一部を行った。

所在地 西区伊川谷町前闇224

事業主体 太山寺

工事期間 昭和58年1月10日～58年3月31日

（昭和57年度から58年度までの2か年継続事業）

### 4. 町並み保存

### 北野町山本通伝統的建造物群保存地区保存修理

神戸市では異人館など、伝統的な建造物が集中している北野町・山本通地区約9.3haを、昭和54年12月27日、文化財保護法による「伝統的建造物群保存地区」に指定した。(昭和55年4月10日には、重要伝統的建造物群保存地区に選定された。)ここでいう伝統的建造物とは、明治・大正・昭和初期のいわゆる異人館などの洋風建築物、同時期のすぐれた和風建築物、伝統的手法による街燈・柵・その他の工作物を指し、現在、重要文化財2棟を含む28棟の洋風建築物、8棟の和風建築物が指定されている。

### 昭和57年度北野町山本通伝統的建造物群保存修理事業一覧

対象物件	補助事業者	設計監理者 施工者	補助事業の内容	工事期間	備考
サッスーン邸 (チャン邸)	43 Santiago Avenue, Arcadia CALIFORNIA 91005 U.S.A. 劉添茂 TUI MIN CHANG	坂内建築設計事務所 甲南建設	主屋：付属屋：屋根 葺替、塗装替、部分 修理 外構：門、塀の修理	昭和57年6月20日 ～9月6日	
洋館長屋 (前舛田・橋邸)	神戸市灘区塩の下通 2丁目1-31 森川株式会社 森川セイ子	石野一夫 二和工務店	主屋：半解体修理	昭和57年5月25日 ～8月31日	2戸建 公園中
片桐・山木邸	神戸市中央区北野町 3丁目9-19 片桐カツ	黒田建築設計事務所 坂井田国光	主屋：付属屋：梁 替、部分修理 外構：門、塀の修理	昭和57年11月20日 ～12月25日	
シェウエケ邸	神戸市中央区山本通 3丁目5-17 エクラ・シェウエケ K.R.A. SHIOUEKE	一和工務店	付属屋：梁替、部 分修理	昭和58年3月1日 ～3月25日	58年度 上屋・壁應 修理予定
豊田邸 (和風)	東京都新宿区市ヶ谷 仲之町53-1-201 豊田繁	山道工務店	横門：屋根、木部等 修理 屋根小壁付板模：解 体修理	昭和57年12月15日 ～58年3月1日	
計 5件	(洋風建築物4件、和風建築物1件)				

### 異人館の活用

異人館を市民に親しまれるものとするため、異人館内でのコンサート、絵画展、写真展、その他各種の催しを実施している。中でも、風見鶏の館で毎月(7、8月を除く)行う「風見鶏コンサート」は、毎回定員(80名)の2、3倍の申込みがある。今年度の異人館の入館者数は、風見鶏の館 667,912人(前年比11.7%減)ラインの館 418,892人(同7.6%増)である。ただし、昭和56年度はポートピア81による入館者増があった。依然として異人館は全国的に高い人気を保っている。

### 伝統的建造物群保存地区啓発

月例クリーン作戦などの活動をしている「北野山本地区をまもりそだてる会」に、助成を行っている。また、まもりそだてる会活動報告や啓発記事を載せたミニ・ニュースを発行した。

## 5. 民俗芸能伝承団体の育成

民俗芸能は、労働を促進したり、五穀豊穣を祈願する生活行事として、広く民衆の生活の中に根ざし、今まで伝承されてきたものである。ところが近年生活環境や価値観の変化によって、こうした伝統的な民俗芸能の多くが、危機に瀕している。このような状況に対処するため、民俗芸能を保護育成し、郷土の歴史と文化の正しい理解に寄与することを目的として、民俗芸能を伝承する者またはその団体に、補助を行っている。

昭和57年度民俗芸能伝承補助金交付団体一覧

区	行 事 名	実 施 日	場 所	区	行 事 名	実 施 日	場 所
東灘	だんじり	5月4、5日	保久良神社	北	行原念仏太鼓	8月6、13日、祭儀	正覚寺
*	*	*	住吉神社	*	播州金頭	8月16日	淡河八幡神社
兵庫	*	5月21、22、23日	和田神社	須磨	盆 舞	1月14日	大藏神社
*	獅子舞	5月8、9日	七宗神社	草木	遣 儀 式	1月2日	伝法輪寺
北	六斎太鼓念仏	8月9、14、16日	成道寺	西	*	1月15日	性海寺
*	獅子舞	10月15日	塩田八幡宮	*	鬼 道 式	2月11日	近江寺

神戸市内指定文化財件数一覧表 (昭和58年3月31日)

文化財の分類			国特別指定		国 指 定		県 指 定		合計	
文 化	有形 文化財	建 造 物	国	宝	1	重 要 文 化 财	18	県指定期 重要有形文化財	14	33
		絵 画	*	0	*	44	*	0	44	
		彫 刻	*	0	*	19	*	4	23	
		工芸品	*	0	*	20	*	5	25	
		書 跡	*	2	*	14	*	2	18	
	考古資料	*	1	*	*	11	*	0	12	
民 俗 文化財	無形 文化財		芸 能		重 要 無 形 文 化 财		0	県指定期 重要無形文化財	2	2
	工芸技術		*		0		*	0	0	
	有形のもの (物 件)		重要有形民俗文化財		2	県指定期 重要有形民俗文化財	3	5		
財 記念物	無形のもの (風俗等)		重要無形民俗文化財		0	県指定期 重要無形民俗文化財	3	3		
	遺 路	特 別 史 路	0	史 路	4	県指定期 史 路	1	5		
	名勝地	特 別 名 称	0	名 胜	1	県指定期 名 胜	0	1		
	動植物 地質鉱物	特別天然記念物	0	天 然 記 念 物	1	県指定期 天然記念物	4	5		
	伝統的建造物群 組合		重要伝統的建造物群 組合		1			1		
合 计 件 数			4		135		38		177	

### III. 昭和57年度埋蔵文化財事業概要

**1. 緊急発掘 調査** 昭和57年度、神戸市では、民間・公共を問わず開発事業が活発で、それに伴い埋蔵文化財発掘調査件数も増加した。緊急発掘調査件数は29件で、昨年より5件増加している。また試掘調査件数は78件、立会調査件数は16件で、昨年の3倍以上の件数に膨れ上がっている。

緊急発掘調査は、29件のうち24件までが公共事業に伴うものであるが、試掘調査は、公共事業32件、民間事業46件と民間事業の方がやや多い。これは、今年度の埋蔵文化財分布調査依頼書の受理件数が204件で、昨年度より増加したことと、市街地の周知の遺跡内で民間の小規模開発が漸増したことによるものと思われる。

立会調査は公共事業13件、民間事業3件であった。

一方、埋蔵文化財調査を地域別にみると、緊急発掘調査は、昭和57年度埋蔵文化財調査事業一覧表に示すように、西区15件、市街地8件、北区6件と西区内での調査が圧倒的に多いが、試掘調査は、別表に示すように公共・民間を問わず市街地での調査件数が圧倒的に多い。この傾向は、昨年度あたりからみられ始めたが、今後ともこの傾向は増加するものと思われる。

昭和57年度 埋蔵文化財試掘調査件数

地区	種別	公共事業	民間事業	備考
市街地東部		13	23	東灘区・灘区・中央区(旧莊合区)
市街地西部		9	10	中央区(旧生田区)・兵庫区・長田区・須磨区・垂水区
西 区		9	11	
北 区		1	2	
	計	32	46	

**2. 遺跡保存** 今年度神戸市では、関係当局の協力により設計変更によって保存を図った遺跡3件、遺構切り取りにより保存を図った遺跡2件、合計5件の保存措置を講じた。

神出遺跡、日下部遺跡など圃場整備事業に伴って発見された遺構は、設計変更により保存が可能となった。また、園舎改築により発見された東求女塚古墳は、ケミコライム工法により盛土転正し、新園舎の地下に保存された。

一方、新方遺跡出土人骨や神出遺跡発見のキセル窓は、ウレタン樹脂を吹付て切りとり、移設して保存した。

3. 史跡処女塚古墳の環境整備は、国庫補助金を得て昭和54年度から実施してお塚古墳環境り、昭和57年度は第4年次にあたる。これまでには、主として周辺の石垣整備と整備防護柵の設置を実施し、整備予定の8割を終了している。

今年度の整備箇所は、残された前方部南側と西側で、整備範囲は33.5mである。石垣は、前方部南側については0.3の法勾配で道路面より2.3mの高さまで整備し、前方部西側は、南東隅よりスロープをつけて段々に高さを減じ、南東隅より12m北側のところで、道路面と同レベルにした。石垣に使用した石材は、径25cm程度の御影石の玉石である。防護柵は、石垣の上に設置した。柵の高さは1.3mである。

処女塚古墳の周辺整備は今年度終了し、来年度からは、発掘調査のデータをもとに墳丘整備を実施する予定である。

fig. 1 史跡処女塚古墳  
環境整備実施図



**4. 現地説明** 昭和57年度、神戸市では下記の5遺跡の現地説明会を開催し、発掘調査の成果の開催結果を広く市民に公開した。

番号	遺跡名	説明年月日	説明者	見学者数
1	新方遺跡	昭和57年7月25日	丹治康明	80名
2	東求女塚古墳	昭和57年9月26日	渡辺伸行	400名
3	西戸田遺跡	昭和57年11月14日	口野博史	30名
4	舞子古墳群東石ヶ谷1号墳	昭和58年1月15日	口野博史	156名
5	居住・小山遺跡	昭和58年1月23日	千種 浩	100名

**5. 大歳山遺跡復元住居の公開** 垂水区西舞子4丁目に所在する大歳山遺跡は、縄文時代前期から弥生時代・古墳時代にかけての複合遺跡である。昭和48年に実施した発掘調査の成果とともに弥生時代の住居を復元し、大歳山遺跡公園として整備し、市民の利用を図っている。今年度も11月1日から11月7日までの文化財保護週間に復元住居を一般公開し、あわせて見学者への説明も行った。公開期間中に、のべ800名の見学者が訪れた。また、読みにくくなっていた木製説明板のうち1点を書きかえ、2点を新たにステンレス製のものに取り替えた。

**6. 史跡五色塚古墳の公開** 垂水区五色山4丁目に所存する五色塚古墳は、昭和40年から10年の歳月をかけて復元整備した古墳である。昭和50年8月以降、一般に公開し現在に至っているが、昭和56年末までに約28万人の見学者が訪れている。昭和57年も見学者数は順調に増え、団体で19,717名、個人34,366名、合計54,083名を数えた、前年比2691名の増加である。また今年度は、読みにくくなっていた説明板の補修取り替えを行い、すべてステンレス製のものに切り替えた。この他、維持管理事業として五色塚古墳周囲の金網の取りつけと、門扉、休憩所屋根の塗装の塗りかえを行った。

**7. 刊行物** 昭和57年度の埋蔵文化財関係の刊行物は下記の3点である。

1. 松野遺跡発掘調査概報 領価 1,500円 送料200円
2. 昭和57年度 遺跡現地説明会資料 領価 500円 送料200円
3. 史跡五色塚古墳 絵葉書 領価 300円 送料170円

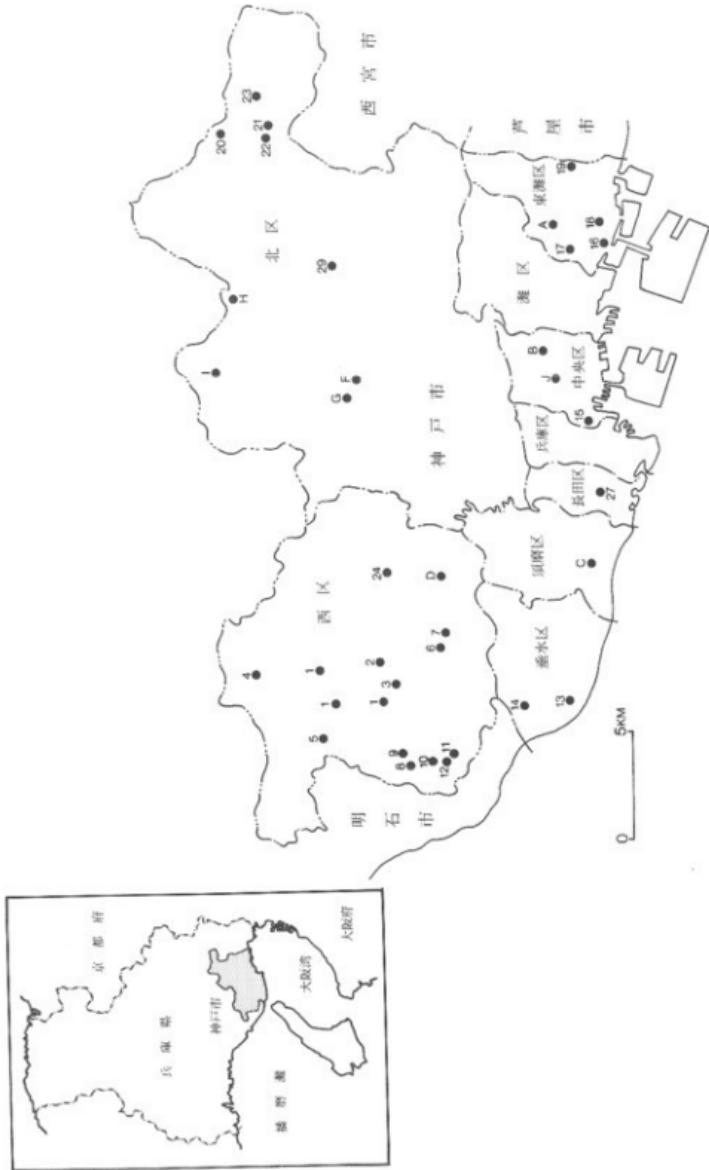
上記の図書は、神戸市立博物館、史跡五色塚古墳管理事務所、神戸市教育委員会文化財課で販売している。

#### 昭和57年度 埋蔵文化財調査事業一覧表

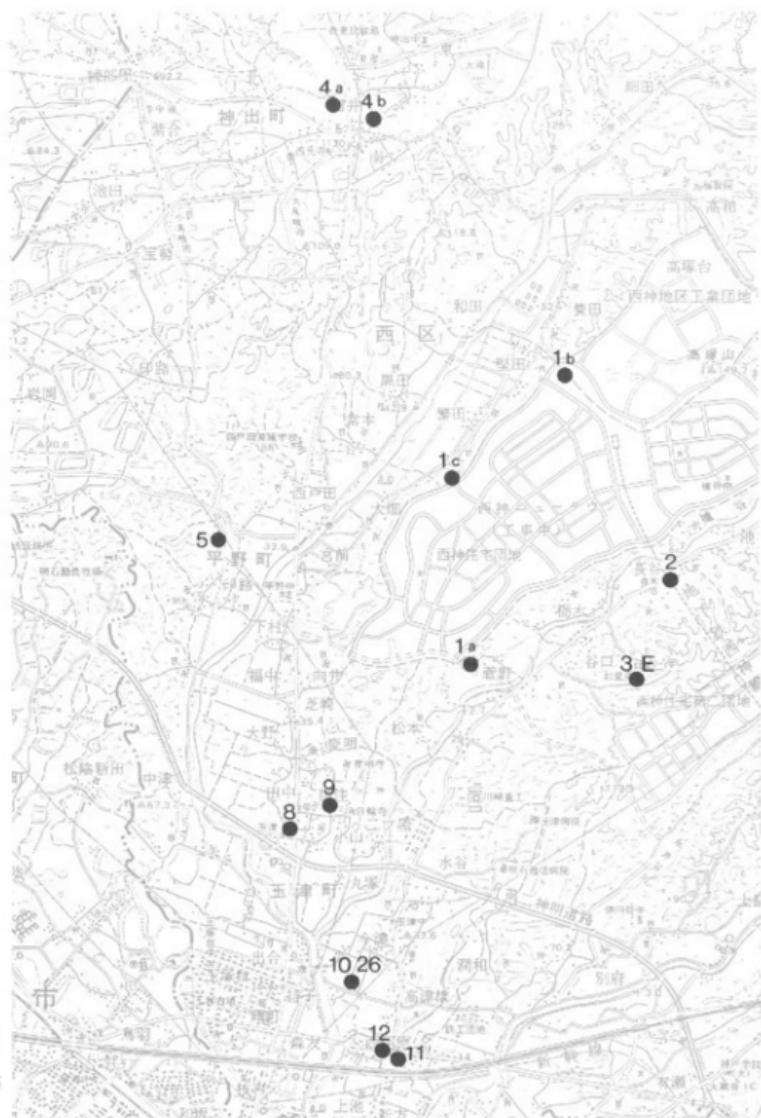
番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	調査期間
1	西神ニュータウン内遺跡	西区樋谷町菅野 西区平野町堅田	西神ニュータウン建設及び開運事業	1,000m <sup>2</sup>	57.4.19~ 57.11.1
2	西神中央線内長谷遺跡	西区樋谷町池谷	西神中央線建設事業	2,300m <sup>2</sup>	57.6.28~ 57.11.11
3	如意寺	西区樋谷町谷口	総合防災設備設置	100m <sup>2</sup>	57.11.15~ 57.11.30

4	神出古室塚群	西区神出町印井	墳場整備事業	3,000m <sup>2</sup>	57.8.23~ 57.12.25
5	西戸田遺跡	西区平野町西戸田	*	368m <sup>2</sup>	57.9.16~ 57.10.25
6	小寺遺跡	西区伊川谷町小寺	*	1,400m <sup>2</sup>	57.5.1~ 57.8.20
7	須高山遺跡	西区伊川谷町小寺	神戸市研究示閲 都市建設事業	3,100m <sup>2</sup>	57.11.15~ 58.3.31
8	店舗遺跡	西区玉津町墨住	店舗建設	225m <sup>2</sup>	57.4.15~ 57.6.21
9	居住・小山遺跡	西区玉津町墨住 ・小山	神戸市居住小山住宅 街区整備事業	5,500m <sup>2</sup>	57.11.18~ 58.3.31
10	今津遺跡	西区玉津町今津	宅地造成	340m <sup>2</sup>	57.4.15~ 57.7.10
11	新方遺跡	西区伊川谷町瀬和	倉庫建設	330m <sup>2</sup> × 3面	57.4.15~ 57.8.20
12	新方丁の坪遺跡	西区玉津町高津橋	店舗建設	140m <sup>2</sup> × 5面	57.8.1~ 57.9.10
13	史跡五色塚古墳	垂水区色山4丁目	市営西五色住宅 建設事業	95m <sup>2</sup>	58.3.22~ 58.3.31
14	舞子古墳群 東右ヶ谷1号墳	垂水区舞子陵	舞子墓園 拡張事業	500m <sup>2</sup>	57.10.27~ 58.1.15
15	宇治川南遺跡	中央区拂町1丁目	市営橘住宅建設事業	400m <sup>2</sup>	57.11.1~ 58.3.31
16	史跡姫女塚古墳	東灘区御影塚町2丁目	史跡保存整備事業	480m <sup>2</sup>	57.8.25~ 57.11.8
17	郡家遺跡	東灘区御影町御影 城ノ前	大神川改修工事	216m <sup>2</sup>	57.10.5~ 57.11.16
18	東求女塚古墳	東灘区住吉町1丁目	幼稚園建設	1,200m <sup>2</sup>	57.8.9~ 57.9.30
19	森北町遺跡	東灘区森北町4丁目	NHK朝日寮建設	200m <sup>2</sup>	57.5.1~ 57.7.15
20	北神ニュータウン内 遺跡	北区長尾町宅原 上津 北区道場町下部	北神第3地区 建設事業	10,286m <sup>2</sup>	57.6.14~ 57.9.18 57.10.18~ 58.3.31
21	日下部遺跡	北区道場町口下部	墳場整備事業	314m <sup>2</sup>	57.6.8~ 57.7.10
22	オキダ古墳群	北区道場町口下部	*	800m <sup>2</sup>	58.1.8~ 58.2.28
23	塩田遺跡	北区道場町塩田	*	500m <sup>2</sup>	57.7.5~ 57.11.4 58.1.8~ 58.2.28
24	池谷遺跡	西区塙谷町福谷	*	240m <sup>2</sup>	57.8.5~ 57.8.31
25	居住遺跡	西区玉津町居住	玉津老いこいの家 建設	10m <sup>2</sup>	57.6.22~ 57.6.30
26	今津遺跡	西区玉津町今津	下水道敷設	56m <sup>2</sup>	57.7.19~ 57.7.23
27	松野遺跡	長田区松野通4丁目	市営住宅建設	126m <sup>2</sup>	57.6.15~ 57.8.31
28	日下部遺跡	北区道場町口下部	宅地造成	50m <sup>2</sup>	57.10.18~ 57.10.31
29	奥藏寺址	北区八多町附物	墓園造成事業	230m <sup>2</sup>	57.12.20~ 58.1.5

昭和57年度 神戸市文化財事業実施地区位置図

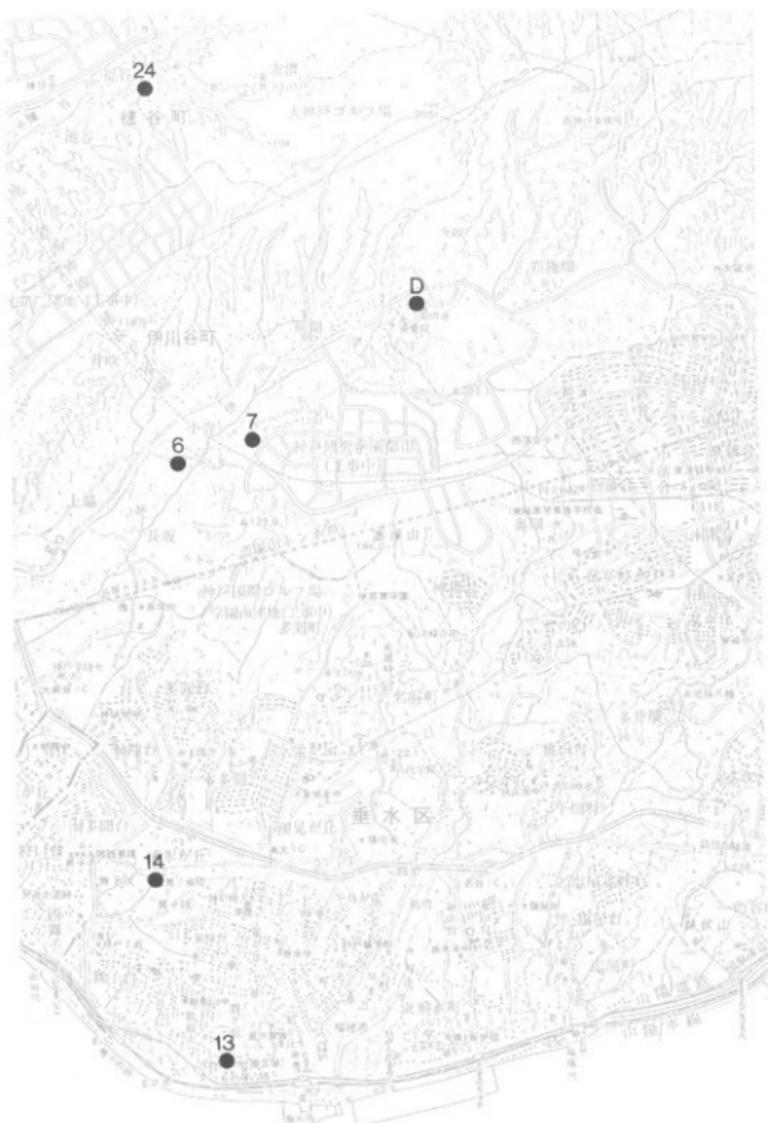


位置図 1

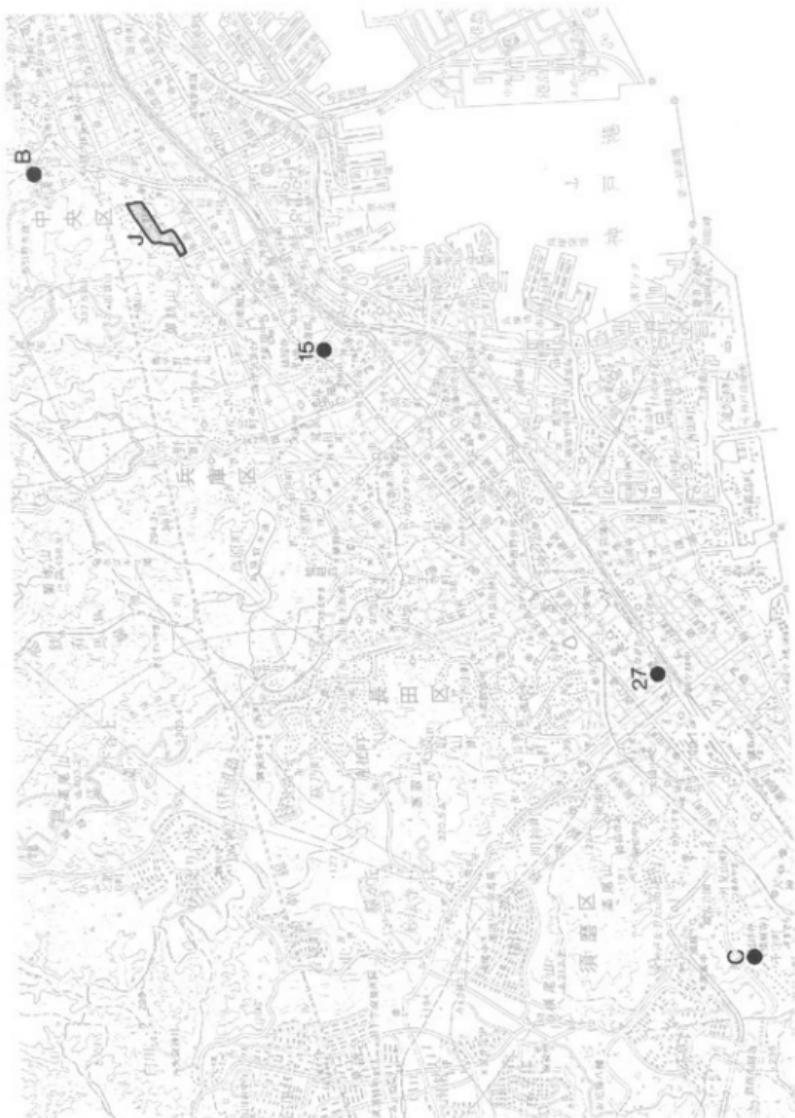


- 1a 第62地点道路  
1b 第33地点道路  
1c 第85地点道路  
4a 堂ノ前、田井裏  
支群  
4b 上ノ下支群

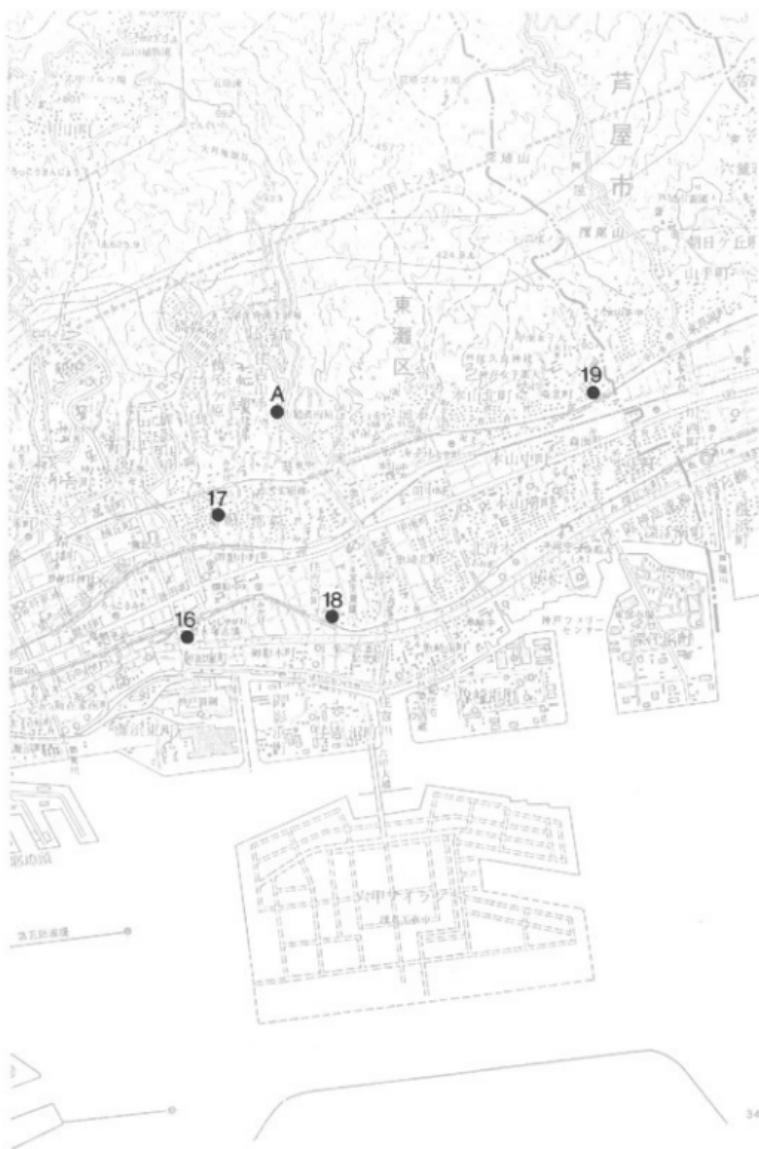
位置図 2



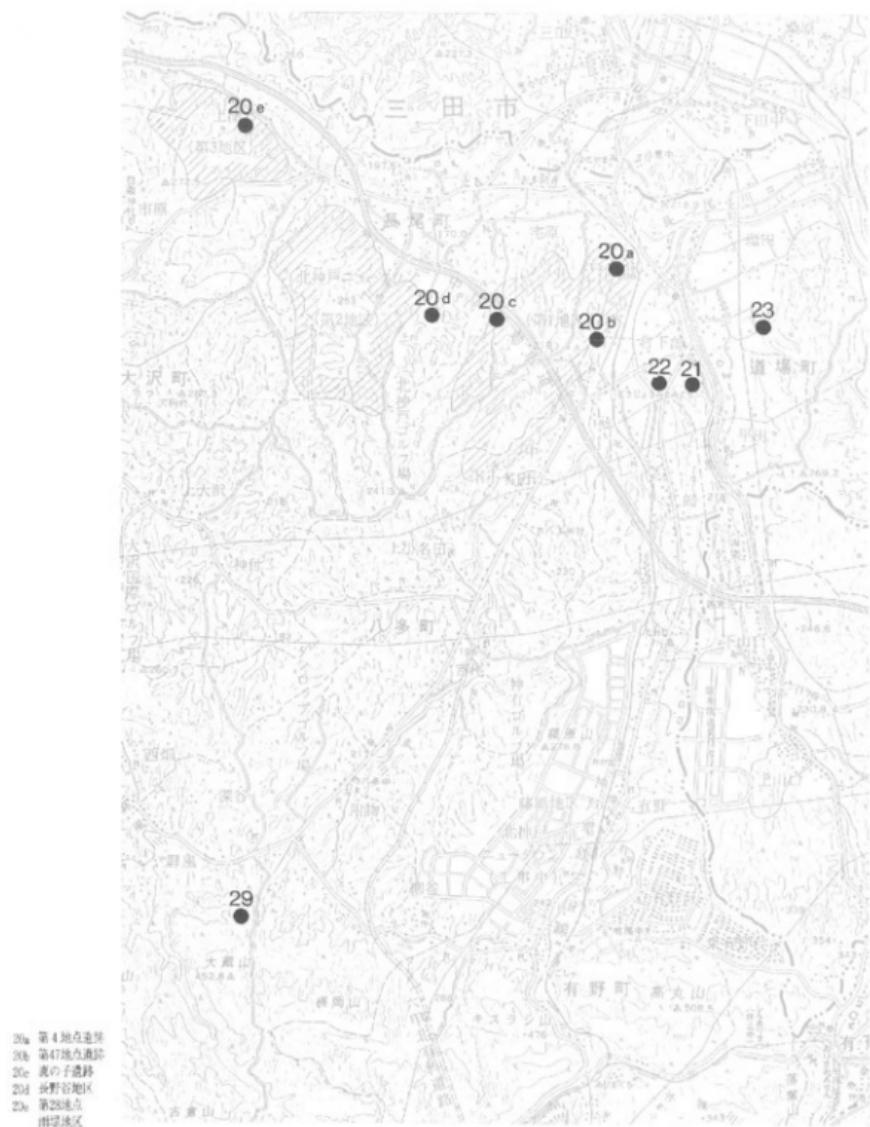
位 置 図 3



位置図 4



位置図 5



## 1. 西神 せいしん ニュータウン内遺跡

昭和57年度の西神ニュータウン建設及び関連事業区域内の発掘調査は、昨年度に引き続き第62地点B遺跡の発掘調査と第33地点の古墳群の補足調査並びに第88地点の窯跡確認のための試掘調査を実施した。このうち試掘調査では、窯跡は確認されなかった。

### 西神第33地点遺跡

#### 1. 調査経過 西神第33地点遺跡は、第33-1号墳から5号墳までの5基の古墳からなる。

昭和46年に発掘調査が行なわれたが、当時は保存の可否が未定であったため、未調査の部分が残っていた。今回、これら古墳の存在する尾根一帯が造成されることになり、未調査である1号墳と5号墳の埋葬主体部掘形および2号墳の墳丘を中心に再調査を実施することになった。

#### 2. 調査概要 第33-1号墳の主体部は、前回の調査で箱形の木棺を使用していたことが知られていた。今回、掘形の調査により棺の埋納状況および掘形の規模・形状を知ることができた。掘形は、盛土より掘り込まれ、下部は地山を切り込んでおり、幅1.5m、長さ3.7m以上、深さ45cmで棺部分はさらに10cm程一段掘りくぼめてあった。第33-5号墳の主体部は土の流失が著しく、掘形も下部を一部残すだけであった。掘形規模は、長さ3.2m、幅1.5m以上で、深さは棺床よりも20cm掘り下げていた。第33-2号墳の墳丘は、その大部分を盛土で築いていたことが判明した。

今回の調査は、前回の補足調査であり、特にあらたな知見は得られなかった。

註 神戸市教育委員会「西神ニュータウン内の道路 中間報告Ⅰ」1972

fig. 2

西神第33-1号墳  
(手前) より、  
33-3A、33-3B  
号墳をのぞむ



## 西神第62地点B遺跡

1. 調査経過 西神第62地点遺跡は、西区櫛谷町菅野に所在し、菅野谷川の河岸段丘上に位置する。菅野谷川の改修工事に伴い、昭和56年度に第1次、第2次の発掘調査を行い、今回が第3次調査となる。今回の調査は、第2次調査においての遺跡の確認されたB地区（左岸地区）について実施した。

2. 調査概要 発掘調査は、河川改修工事にかかる範囲を対象に、第2次調査地区を含む約1,000m<sup>2</sup>について行った。検出された遺構は、竪穴住居址2棟、掘立柱建物6棟、溝4条である。他に柱穴と考えられるピットが数ヶ所検出されたが、建物址として確認できるものはなかった。

**竪穴住居址** 竪穴住居址は、2棟が切り合いをもって検出された。1棟は切られており半分以上失われているが、一辺4.5mの方形と思われる。他の1棟は一辺5.4mの方形を呈しており4本柱である。いずれの住居址も西側辺に黄褐色の粘土で築いたカマドを設けている。これら住居址の時期は、堀から出土した須恵器、土師器より古墳時代後期（6世紀後半）と考えられる。

**掘立柱建物** 掘立柱建物は6棟が確認され、うち2棟は調査地外に広がっている。発見された建物は2間×2間（柱間は1.8m等間）の建物2棟、桁行2間、梁間1間（柱間は桁行1.9m等間、梁間は東辺2.8m、西辺1.4m等間）の建物1棟2間×3間（柱間は1.8m等間）の建物1棟である。調査地外に広がる2棟の建物は調査地内では2間分の柱穴しか検出できなかつたが、おそらく2間×2間の建物と推定される。これら掘立柱建物の柱穴掘形内からは須恵器・土師器の細片が出土した。出土遺物からみて、2間×3間の建物は平安時代末から鎌倉時代初頭と思われ、他の建物は竪穴住居址と同時期の6世紀後半と考えられる。

**溝** 溝は4条検出され、1条が弥生時代後期のものであるほかは、古墳時代後期（6世紀中頃）のものと思われる。古墳時代の溝のうち1条は幅30~40cm、深さ10cm内で、辺約6mで「く」字状になり、溝底から径10cm程のピットが数ヶ所検出された。

3.まとめ 今回の調査では、古墳時代および中世初期の建物址を中心とする遺構が検出された。前回調査のA地区でも古墳時代後期の遺構が検出されており、遺跡は現在の菅野谷川の両岸に存在しており、さらに北西の段丘上にひろがっていると考えられる。これまで櫛谷川流域においては、古墳時代の集落址の調査例は極めて少なく、その様相についても明らかでない。今回の調査で発見された集落址が竪穴住居址と掘立柱建物を混在していることなど、古墳時代後期の集落址を究明する上で重要な資料を提供したといえよう。

註 神戸市教育委員会「昭和56年度神戸市埋蔵文化財年報」1983

fig. 3 古墳時代堅穴住居址  
(西から)

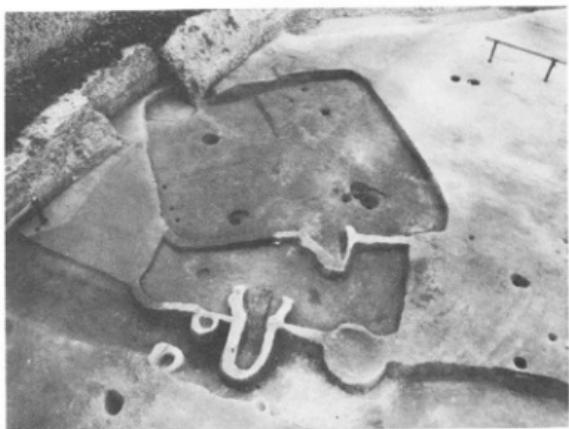


fig. 4 鎌倉時代掘立柱建物  
(西から)

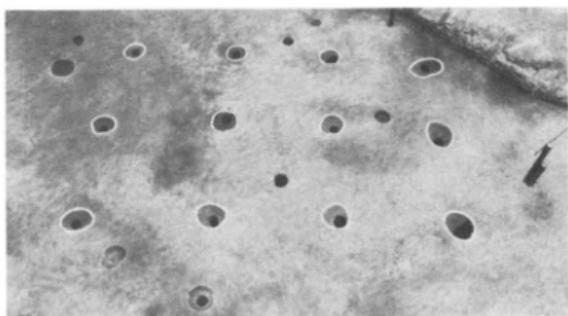


fig. 5 古墳時代掘立柱建物  
(西から)



## 2. 西神中央線長谷遺跡

1. 調査経過 長谷遺跡は、櫛谷川の中流域、神戸市西区櫛谷町池谷に位置している。櫛谷地城は明石川の支流の櫛谷川によって形成された、ほぼ東西に広がる小平野に存在している。櫛谷地城には県道小部 - 明石線が中央を走り、櫛谷町池谷地区で西神中央線が交差する計画となっている。そのため工事に先立ち、昭和56年度に西神中央線予定地内の分布調査、試掘調査を実施した結果、この地区内に中世遺構が確認された。県道より北の櫛谷川寄り約50mを長谷A遺跡、南側の丘陵寄りを長谷B遺跡と称している。明石川流域およびその支流である伊川流域には、吉田南遺跡、池上口ノ池遺跡、頭高山遺跡、新方遺跡等弥生時代から中世にかけての遺跡が多く存在しているが、中央部にあたる櫛谷川流域には弥生時代の遺跡は少なく、菅野・松本地域から古墳時代の遺跡が確認されている。
2. 調査概要 調査は、中央線建設予定地の両側に幅5m、長さ180mのトレンチ2本を設定して行うこととし、東側を第1トレンチ、西側を第2トレンチとした。掘削は両トレンチとも県道側から開始したところ、遺物包含層はほとんどなく、遺物の出土も少なかった。検出された遺構は火葬墓と思われる土壙（SK01～07）土器溜め土壙（SK08）、用途不明土壙（SK09）である。SK01～07の火葬墓と思われる土壙は、長さ1.2～4.5m、幅1.4～1.6m、深さ10～20cm前後で、短辺の中央部に突出部を設けており、一部は突出部の下を一段掘りくぼめたものも認められた。これらはいずれも土壙の底や壁面が一部焼けており、土壙全体に炭が詰っていた。SK08の土器溜め土壙は、径6mのほぼ円形で深さ1.5mのすり鉢状底で、中から羽釜、土鍋、甕、壺、环等が出土した。何かの目的で使用されていた土壙が不要になった後、土器溜めとして使われたものと思われる。また、SK09の用途不明土壙は直径50cm、深さ40cmで中に炭が詰っていたが遺物は皆無であった。
3. まとめ 今回の調査で注目されるのは短辺中央に突出部のある土壙で、当初火葬墓と考えていたが、土壙内から骨片や木棺に使用される釘などの遺物が出土せず、墓と断定することはできなかった。また、土壙内に炭が堆積している状況から見てかなりの火を使用したと思われるが、底や壁の焼けが少なく当初から炭を土壙内に敷いていたと思われる。時期も遺物がなく断定できないが、土器溜め土壙と同様で検出されることから12世紀後半から13世紀にかけてのものである。

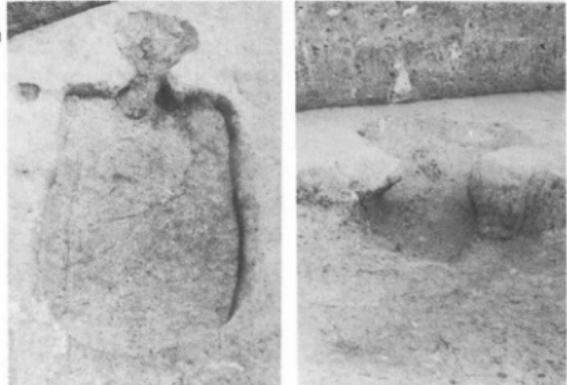
fig. 6 西神中央線長谷遺跡  
全景



fig. 7 短辺中央に突出部  
ある土壙SK01  
(東から)



fig. 8 土壙SK02(左)とそ  
の突出部(右)(東から)



### 3. 如意寺跡

1. はじめに 如意寺は神戸市西区櫛谷町谷口に所在し、櫛谷川左岸の河谷平野から東に展開する支谷の奥まった地点に位置している。

2. 調査概要 調査地は文殊堂の西南約30mに位置し、北部は阿弥陀堂の存在する丘陵腹から人工的に切り離されて平坦になっている。南部は現在の公道より約1.5m高く、南北15m、東西14mの方形の壇状となっている。この方形壇状部中央の消火用貯水槽設置地の工事予定範囲約99m<sup>2</sup>について調査を行った。

**第1次遺構面** 地表下80cmで焼土、焼瓦を多量に含む第1次整地面が露われ、江戸時代の巴文軒丸瓦を含む不定形土壤1基及び柱穴1ヶ所を検出した。

**第2次遺構面** 第1次整地面を形成する明黄褐色粘質土を除去すると黄褐色砂礫土となり、トレンチ西北部でこれを切り込んだ瓦窯1基を検出した。

**第3次遺構面** さらに第2次整地面を除去した結果、方形基壇1基を検出した。

#### 3. 検出遺構

**瓦 窯** 長梢円形の平面プランをもつ瓦窯である。規模は幅1.8m、主軸長3.7m以上を測る。窯体は整地層を掘り回め、粘土を敷きつめて床面を築いている。後世の削平のため焚口・煙出しは不明であるが、両側に焚口をそなえ、中央に煙道・煙出しをもつ瓦窯と推定される。窯体の推定復原長は5.0mと考えられる。

**建物基壇** 南北8.5m、東西4.5m以上の方形基壇である。基壇上面は全体に中世須恵器、土師器を含む灰褐色色粘性砂質土(炭を含む)に覆われている。基壇上面から3cm大の小石を埋めた礎石据付け痕跡11ヶ所を確認した。梁間3間、桁行3間以上の南北棟礎石建物である。桁行の柱間は南と北は2.0mで、中央間は2.3mを測る。梁の柱間は1.8m等間である。

礎石建物の基壇の西辺に沿って内側に2間分(2m等間)の柱列Aがあり、それを切って柱列B4間分(2.1m等間)が付設されている。

4.まとめ 今回の調査の結果、3時期の遺構面となった焼瓦層は、如意寺旧記にある天文8年(1589年)の大火以後のものであり、その下層で検出した瓦窯はそれ以前のものと考えられる。阿弥陀堂の丸瓦のヘラ書き(応永13年)から、如意寺の瓦の葺き替えは応永年中(1394~1427年)の大改装と共に行われたと思われる。従って今回発見の瓦窯は、15世紀前後のものと推定される。

瓦窯の下層及び第2次整地層からは瓦の出土はなく、基壇周辺での推積層からも瓦の出土がないことから、基壇建物は瓦葺きではなかったと考えられる。基壇上面出土の須恵器塊の型式から、基壇建物は14世紀後半を降らない時期と考えられる。

fig. 9 如意寺境内（南から）



fig. 10 基壇建物(西から)



fig. 11 瓦窯 (南から)



#### 4. 神出古窯址群

1. 調査経過 神出地域での今年度開場整備事業実施地区のうち、田井地区堂の前、田井裏、池ノ下、各地点でトレンチ調査を実施した。
  2. 調査概要 焚口が南を向く8基の窯体を検出した。灰原の範囲は、東西約60mで灰層内堂ノ前には窯壁片や赤色土が瓦層をなし、窯体の修復が繰り返されたことが知られた。  
田井裏 窯体1基と南北30mにわたる灰原を検出した。  
池ノ下 灰層の一部と2基の窯体、キセル窯を検出した。キセル窯は耕土直下にあり、工事による破損の恐れがあるため、ウレタン樹脂吹き付け後切り取り、保存する措置を講じた。  
南 下 溝、土壤、柱穴等を検出したが、多くが、トレンチ外に延びるため、建物の規模や各構造の性格などについては不明である。
  3. 出土遺物 須恵器、瓦がほぼ同量出土し、須恵器では捏鉢が最も多く、壇・甕・皿・壺堂ノ前などの器種がみられ、特殊な遺物としては長方磯が出土している。瓦類の大半は平瓦・丸瓦であるが、軒平・軒丸瓦が多く、鬼瓦も5面出土している。時期は、瓦当文様などから12世紀初頭のものと考えられる。  
田井裏 円面硯1・風字硯1・二面硯1など特殊な遺物が出土している。須恵器では壺類が比較的多く、他に竈・把手付煮沸壺などがある。遺物の傾向や時期は堂ノ前支群と近似し、瓦の瓦当文様も堂ノ前支群と同文・同範のものが多い。  
池ノ下 捏鉢が大半を占め、壇、皿、甕は少ない。瓦類の出土も少量である。時期は12世紀末頃であろう。キセル窯の時期は12世紀中頃と思われる。その他、包含層から、「瓦中寺年王……」の名を持つ軒平瓦が出土した。この瓦と同窓のものが、摂津・四天王寺より出土しており、これから「瓦中寺年王久天長四」と寺名と紀年名を持つものであることが知られる。  
南 下 溝(SD01)を中心として須恵器生産地内の集落の傾向を示す遺物が出土している。そのほとんどが須恵器からなり、土師器、瓦器は極めて少ない。
- 4.まとめ 今年度の調査により、3支群17基の窯址と集落址1遺跡が発見された。
- 堂ノ前、田井裏支群など、12世紀初頭に操業を行ったと考えられる窯址では、瓦類の生産が多い。また、須恵器ではこの時期に壇を主体とした生産から捏鉢を中心とした生産へと転換する。瓦類の生産は、六勝寺の造営と対応したものと考えられ、これらの諸寺からは当窯址出土品と同文のものが出土している。
- また、池ノ下支群で出土した紀年銘を持つ軒平瓦から、京都の諸寺院のほか摂津・四天王寺にも供給されたことが知られる。この年号は、今後、神出古窯址群の編年を行うにあたり、基準資料になるものと思われる。

fig. 12 左 池ノ下支群 3号  
窯 (北から)  
右 堂ノ前支群 2号  
窯 (南から)

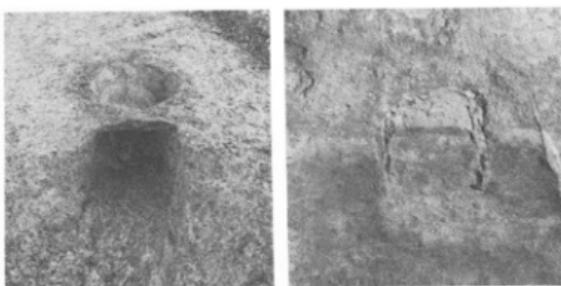


fig. 13 池ノ下支群 2号窯  
(北から)

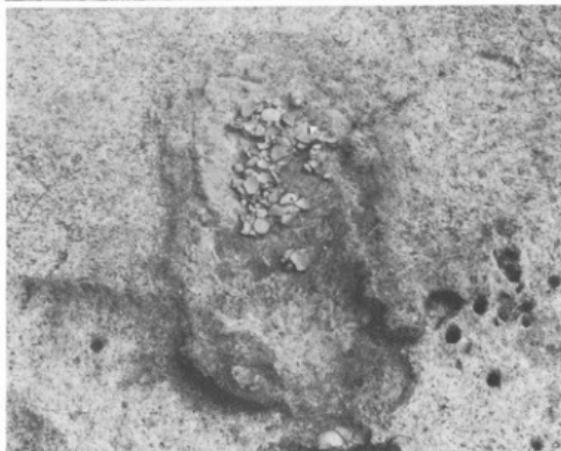


fig. 14 堂ノ前支群 4号窯  
(南から)



## 5. 西戸田遺跡

1. 調査経過 西戸田遺跡は、西区平野町西戸田に所在する。圃場整備に伴なう発掘調査を昭和54年度から57年度にかけて、4年間実施している。57年度はその最終年度にある。

2. 周辺遺跡 57年度調査地は、明石川の石岸、明石川の形成した中位段丘の裾部にある。周辺の遺跡として、北側に常本遺跡（弥生時代前期・後期）黒田遺跡（古墳時代、中世）が存在する。また西戸田の集落の東辺に、江戸時代に開削された林崎堀割が南流している。東南の丘陵上に中村古墳群、南側には田中遺跡（弥生時代、中世）等が、また東方には、西神ニュータウン内遺跡群が存在する。

3. 調査概要 基本層序は、上から耕土、床土、古墳時代遺物包含層、黄色砂泥の地山となり、これが遺構面となる。

検出された遺構は、古墳時代の溝1条、土壙2基、ピット10箇所と弥生時代の土壙1基である。

**溝 1** 溝1は、幅5m、深さ20~50cmの溝状遺構である。弥生土器、古墳時代土師器、須恵器が出土した。

**土壙1、2** 土壙1・2は、溝1の埋土を除去した後に検出された遺構である。土壙2は、径1m、深さ20cmの浅い皿状の土壙である。古墳時代の土師器、須恵器が少量出土した。土壙1は、形状は不明であるが、溝1の底面を直角に80cm程切り込んでいる。遺物は比較的多く出土した。時期としては土壙1・2とも溝1の遺物と大差なく6世紀後半頃と考えられる。

また、トレンチ北側では、10箇所のピットが検出された。埋土や遺物から溝・土壙等と同時期の柱穴と思われるが、建物としては、まとまらなかった。

**土壙3** 土壙3も土壙1・2と同様に溝1埋土を除去した後に、検出された遺構である。長径3.5m・短径2.0m、深さ30cmの橢円形の土壙である。弥生時代前期の壺、甕等が出土した。出土状況から廃棄したものと考えられる。また少量の炭も出土した。

4. まとめ 古墳時代の一連の遺構は、出土遺物等から、付近にこの時期の集落の存在を予想させる。また、弥生時代前期の土壙と出土遺物は、弥生時代前期の文化が常本遺跡と並び、明石川中流域にまで確実に及んでいたことを物語っている。

過去4年間に渡る調査は、圃場整備対象面積に比較し、狭少なものであったが、昭和55年度の中世遺構群、古墳時代前期住居址の発見、昭和56年度の中世遺構群の発見等の成果があった。一集落のなかで各時期に及ぶ祖先の生活をあとづける資料が発見されたことは、大きな意義をもつと考えられる。

## 6. 小寺遺跡

**1. 調査経過** 小寺遺跡は、神戸市西区伊川谷町小寺に所在し、明石川の支流伊川中流域東岸に位置する。当該地には、圃場整備事業が実施されるため、それに先立って発掘調査を実施した。今年度の調査は、昭和56年度に引き続き第2年次の調査である。

遺跡の周辺にはこれまでに、頭高山遺跡（弥生時代中期高地性集落）、大門遺跡（中世火葬墓址群）、柿谷古墳群（6世紀）が確認され、発掘調査が実施されている。

**2. 調査概要** 昭和56年度の予備調査と今年度実施した試掘調査により、第1地点800m<sup>2</sup>、第2地点200m<sup>2</sup>、合計1,000m<sup>2</sup>を発掘調査した。

**第1地点** 第1地点の北西部は伊川の氾濫原上に立地しており、造構ベースは砂質土であり、その直下は円礫を多量に含む砂層である。

検出された遺構は、掘立柱建物2、溝6、土壙、ピットである。

**溝** S D01は、幅2.5m・深さ40cmで調査区西端で伊川に流入する。S D01から出土した遺物はないが、時期は他の遺構より新しいと考えられる。

他の溝は、幅50cm前後・深さ20cm程で、7世紀後半から8世紀前半の須恵器・土師器が出土している。

**掘立柱建物** S B01は、S D01に削られているが、桁行6間、梁間2間（柱間は桁行1.5m、梁間2.0m）の建物であったことと思われる。S B02は、桁行3間、梁間2間（柱間は桁行1.8m、梁間2.0m）の建物である。

第1地点の時期は、出土遺物より7世紀後半から8世紀前半と考えられる。

**第2地点** 第2地点は、伊川の河岸段丘上に立地している。検出された遺構は、溝2、土壙1、ピットである。

**溝** S D01は、最大幅4.25m、深さ55cmで、断面形はV字状を呈する。S D02は、幅2.13m、深さ20cmで、S D01より新しい。

S D02は、出土遺物が無いが、S D01からは、土師器・須恵器・縁軸陶器が出土しており、10世紀後半と思われる。

**土 壤** S K01は、8.5m×4.5m、深さ20cmで、7世紀後半と考えられる台付長頭壺・甕などの須恵器と、鉢などの土師器が出土している。

## 7. 頭高山遺跡

1. 調査経過 頭高山遺跡は、明石川の支流である伊川の中流域左岸に位置し、伊川によって形成された平野部に臨む標高117mを頂部とする洪積丘陵上に立地している。昭和53年度に実施した研究学園都市建設予定地内の遺跡確認調査によって、弥生時代の遺跡の存在が明らかになった。その後の試掘調査で、頭高山の頂部とそこから派生する尾根のほぼ全体に広大な集落址が存在することが確認された。遺跡は標高90~115mの間に存在しており、比高にして約40~65mの尾根上および斜面に遺構を形成している。今回の調査は、昭和57年末より遺跡の南東部分にあたる尾根の約7,000m<sup>2</sup>を対象として実施している。
2. 調査概要 調査地は頭高山遺跡のなかで平野部側から最も奥に位置する尾根にあたり、尾根上には幅10m、長さ35mの平坦面がのびるが、尾根の東、南、西の各斜面の傾斜はきつく30度の斜度を測る所も少なくない。現在調査中であるため、以下は西斜面と南斜面の一部についての概要である。
3. 積穴住居址 これまでに検出された積穴住居址は10棟である。傾斜面にあるため残存状態はあまり良くなく、住居址と断定し難いものもある。住居址のほとんどは、下半部が流失し、平面形が半月状を呈している。規模は長径6~8m、残存短径が4m程度で、多くは楕円形を呈していた推定される。
4. 土 壤 尾根上平坦面および稜線上からは、土壌が検出された。これらの土壌中には、焼土や炭化物が見られたが、土器片などの遺物は少量であった。
5. 出土遺物 遺構内および流土中より弥生土器と石器類が出土している。土器は、弥生時代中期後半のものがほとんどである。石器類は、サヌカイト製の石鏃および剣片、碎片のほか、流土中より磨製石剣が出土した。磨製石剣は、茎部を欠損しているが、残存長15.5cm、幅3.2cmで基部付近に孔を2つ穿っている。
6. まとめ 調査継続中のため、遺構の検出も調査地の約半分にすぎず、出土遺物も未整理である。このため、調査成果の詳細については、現在の調査終了および遺物の整理を待って、あらためて報告したい。



fig. 15 頭高山遺跡遠景

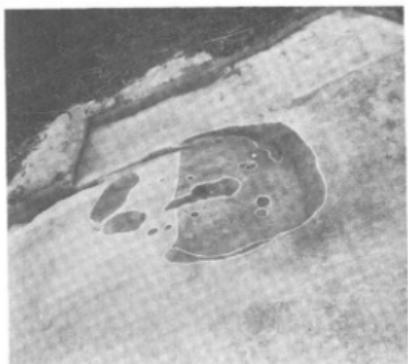


fig. 16 穹穴住居址 1 ( 東から )



fig. 17 穹穴住居址 4 ( 東から )

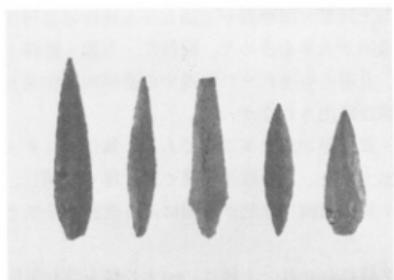


fig. 18 石鏃

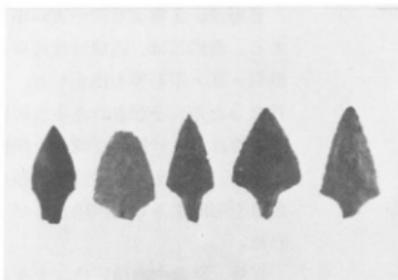


fig. 19 石鏃(左はしは、磨製石劍)



fig. 20 磨製石劍

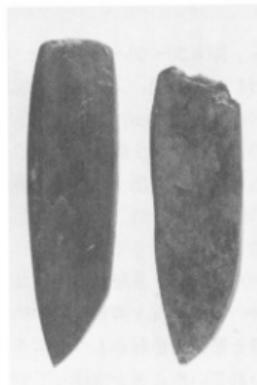


fig. 21 柱状片刀石斧



fig. 22 太型船刃石劍

## 8. いすみ 居住遺跡

1. 環 境 居住遺跡は、明石川が、下流域に入り緩やかに蛇行を始める左岸の河岸段丘下位面に存在する。

周辺の遺跡として、西方の丘陵上に中村古墳群、西北の河岸段丘下位面に田中遺跡、北方には、西戸田・常本・黒田遺跡等がある。東北方向の丘陵上には、居住・小山遺跡、また東南から西南にかけて高津橋岡、新方、今津、吉田、吉田南の各遺跡と王塚古墳等が存在している。

2. 基本層序 基本層序は、上から耕土・床土・遺物包含層（I～IV）、地山である。

と出土遺物 I層は、弥生土器、古墳時代から中世にかけての土師器・須恵器を含む層である。遺物の磨滅状態から流れ堆積と思われる。ほかに青磁・白磁・瓦・鉄鏹・石製紡錘車・サスカイト片が出土した。

II層は、I層よりやや古い中世の土師器・須恵器が下限となる遺物包含層である。量的には、古墳時代後期の遺物が大半を占めた。縁釉片・瓦器・鉄鏹・鉄釘・瓦・叩石等も出土した。I、II層ともそれぞれの面での遺構検出作業を行なったが、予想された中世の遺構は検出されなかった。

III層は、6世紀半ば頃の土師器・須恵器が出土する層である。他にミニチュア土器、製塙土器、古式須恵器が出土した。III層は北に薄く南に厚く堆積し、III層を削除すると北西隅よりピット群、東側には北から南に走る流路が検出された。

IV層（流路内堆積）は、大きく2層にわかれ、上層は10cmの大礫を含む黒褐色の泥砂層、下層は、同色の粘質泥となる。大半の遺物は、この2層の間で出土した。出土遺物には、弥生土器、サスカイト片・古式須恵器・ミニチュア土器等がある。

3. 遺 構 遺構は、幅約6m、深さ20～50cmの流路と、桁行3間、梁間2間の南北棟継柱建物（柱間は桁行1.6m等間、梁間1.8m等間）1棟、その他に浅い土壠2基、弧状の溝（幅70cm、深さ20cm）1条とピット数ヶ所が検出された。

流路内から多量の古墳時代の土師器・須恵器が出土した。5世紀末から6世紀前半にかけてのものである。出土状況から廐棄物の堆積と見られる。建物その他の遺構は、この流路の埋没時とほぼ併行し、III層の堆積（6世紀中葉以降）が始まる頃まで存続していたようである。

4. ま と め 基本層序でも述べたが、I・II層の堆積層は、中世頃の大洪水の所産である。上流の同時期の遺跡の存続状況を考察する一助となる資料を呈示している。

また、古式須恵器と祭祀的色彩をもつミニチュア土器の出土は、この付近で政治的祭祀が行なわれていたことを物語っている。

fig. 23 調査区全景 (北から)



fig. 24 掘立柱建物 (北から)

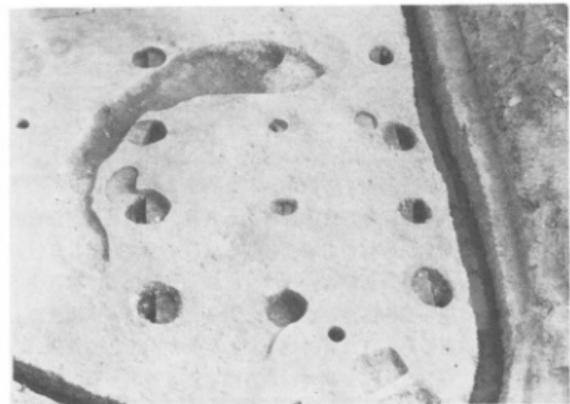


fig. 25 土師器高壙出土状況 (溝内)

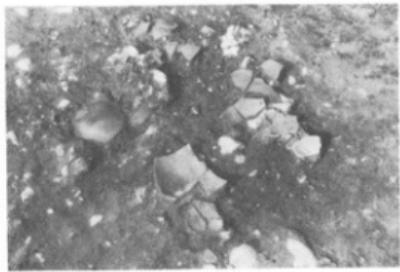


fig. 26 須恵器壙出土状況 (溝内)

## 9. いすみ・こやま 居住・小山遺跡

### 1. 調査経過 今回の発掘調査は、居住・小山住宅街区整備事業に伴い実施したものである。

全面調査に先行して、昭和56年11月に事業区域全体に試掘調査を実施した。

調査の結果、明石川を見おろす高位段丘面（標高約35m、比高約20m）の縁辺部と東側丘陵の裾付近に遺物、遺構が検出された。前者をA地区、後者をB地区とし、両地区とも全面調査を実施した。

### 2. 調査概要 両地区共に遺物包含層はほとんど削平されていたため、遺構面は耕土直下で検出された。

**A地区** 弥生時代中期の竪穴住居址1棟と土壙3基、溝で区画された空間にL字形に配置された鎌倉時代の掘立柱建物4棟と土壙12基、土壙墓5基が検出された。

弥生時代中期の土壙から磨製大型石庖丁（ジャモン岩製）が出土している。（単位cm）

番号	屋根	柱	壁	床	柱穴	方位	備考			
							南北	東西		
建物1	3×4間 (北北×東西)	木	北	東	西	幅20 深さ20 20~60	15~20	50	N66°W	柱穴の標面に軒手足、柱頭部に土跡、底板に丸かき。
建物2	2×3間 4500×680	木	北	東	西	幅20 深さ20~50	15	30~30	N70°W	柱頭部に土に土跡盛張状、柱頭部に土跡。
建物3	3×2間 6900×400	木	北	東	西	幅20~25 深さ20~25	10	10~15	N55°W	柱穴の標面にこぶし大の凹跡、南に1箇所の彫り出し跡。
建物4	3×3間 6900×650	木	北	東	西	幅20~25 深さ20~50	25	15~20	N62°W	柱柱。

**B地区** 6世紀前半の削平された円墳2基、方墳3基の周濠を検出した。東側丘陵を中心に慶明寺古墳群（木棺直葬、横穴式石室混在約10基）が広がっており、今回検出された古墳は、同古墳群小山支群として位置付けられる。

5基の古墳は、ほぼ一直線上に近接して存在する。削平面には横穴式石室の掘形等の痕跡がないことから埋葬施設は木棺直葬と推定される。削平面と周濠上層からは鎌倉時代中頃の遺物が出土しており、この時期に削平され、周辺にピット、土壙が穿たれたと推定される。

（単位cm）

番号	形状	規模	剖面				備考
			南北	東西	幅	深さ	
1号墳	方墳	1邊	600	200	20	北邊の 底手足	
2号墳	円墳	径	950	100~ 200	15~ 25	東下部 E101 E102	周濠の標面に近い100×50cmの 新近に火炎をいたした跡。
3号墳	方墳	南北 東西	700 750	100~ 200	20~ 25	東南部 E203 E204	周濠の標面に近い100×50cmの 新近に火炎をいたした跡。
4号墳	方墳	南北 東西	1,000 800	200~ 300	20~ 24	北下部 E305 E306	周濠の標面に近い100×50cmの 新近に火炎をいたした跡。
5号墳	円墳	径約	650	200	10~ 20	E405	周濠の標面に近い100×50cmの 新近に火炎をいたした跡。

**3. まとめ** 当遺跡が立地する段丘面の西側平野部では、田中遺跡、居住遺跡等弥生時代以降連続する集落址が存在している。これら近接する平野部の集落址と台地上の当遺跡が各時期に、どのような関係をもっていたのか興味深い問題を含んでいる。今後の調査によって明らかにしていく必要があろう。

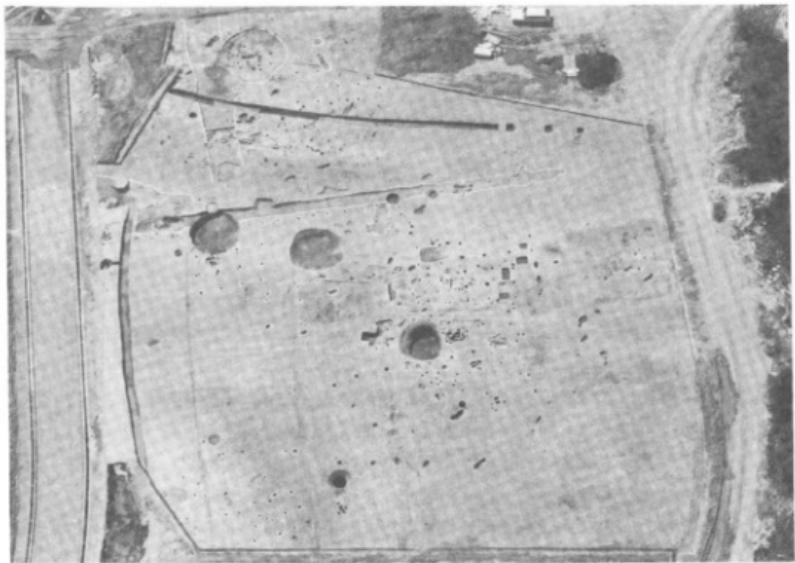


fig. 27 A地区全域

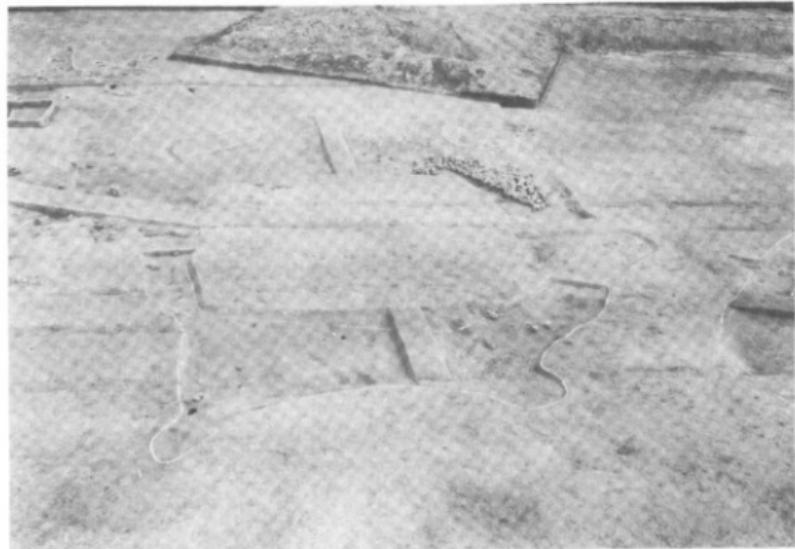


fig. 28 B地区 3号墳

## 10. 今津遺跡

**1. 調査経過** 今津遺跡は明石川下流域左岸に位置し、現明石川までは約70mの距離にある。対岸の下流約1kmには著名な吉田遺跡、吉田南遺跡が存在している。同様の拠点集落と目される新方遺跡は当遺跡南約1kmの伊川水系に位置している。

今回の調査は、分譲住宅建設に伴い実施した。昭和55年度にも同様の契機により、今回調査地東側で発掘調査を実施している。その際、弥生時代中期の竪穴住居址3棟と土壙墓1基、土壙、ピットが検出され、弥生時代前期の土器や、打製石庖丁（サスカイト製）、磨製石庖丁（砂岩製）、和泉型壺（第Ⅲ様式）など、特徴的な遺物が出土している。

**2. 調査概要** 第1・第2トレーナー（各5×30m）の2本のトレーナーを設定して調査した。両トレーナー共に造構面は二面存在し（標高13m）同一の大溝（幅6m以上、深さ1.2~1.5m）を検出した。自然流路ではなく、人為的な水路である。溝中からは第Ⅱ様式壺形土器と布留式大甕の完形品が同一層中より出土している。上層からは、六世紀中葉の須恵器が出土している。布留期に掘削され六世紀まで機能していたと推定される。

第1トレーナーでは、第Ⅳ様式併行期の木棺墓2基以上、第Ⅲ様式併行の円形竪穴式住居址1棟、木棺墓1基及び土壙約25基を検出した。

第2トレーナーでは、第V様式最古段階の土壙、第Ⅲ様式新段階併行の円形竪穴式住居址1棟、土器棺1基、溝状造構、焼土壙等を検出した。

**4. 出土置物** 両トレーナー共に第Ⅲ・Ⅳ様式の土器が多く出土した。若干第V様式のものも見られるが、前期に属するものは今回出土していない。注目されるのは、第2トレーナー溝状造構から、第Ⅳ様式後半と推定される一括資料が出土している点と、同土壙出土の第V様式の最古に位置付けられる一群の土器群の出土である。

同時期の近接する新方遺跡の土器に比して、胎土・色調・装飾技法等の点において異なる様相がみられる。

第2トレーナーの竪穴住居址からは、スカイブルーのガラス小玉、扁平片刃石斧、柱状片刃石斧各1点が出土している。

**5. まとめ** 当遺跡の弥生時代集落の範囲は、立会等によるデータによれば東西0.5km、南北1.5kmである。前回の調査成果を含めて、今津弥生ムラを復元すれば、第Ⅱ様式頃から新方遺跡等の影響を受けながら集落を形成し、第V様式前半にこの地は一旦放棄され、北東丘陵上に立地する高津橋岡遺跡に集落を移したと推定される。その後、5世紀のある時期に、平野部の灌漑作業に伴い大溝が穿たれたと推測される。

fig. 29 第2トレンチ  
弥生時代中期住居址  
(西から)



fig. 30 第2トレンチ  
土器棺(南から)

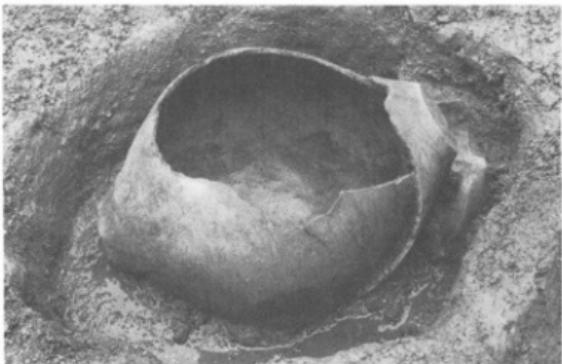


fig. 31 第2トレンチ  
落ち込み(南から)



## 11. 新方遺跡

**1. 調査経過** 新方遺跡は昭和45年に開始された山陽新幹線建設に先立つ分布調査および試掘調査によって発見された遺跡で、弥生時代前期から古墳・奈良・平安・鎌倉時代と続く複合遺跡である。

今回の調査は、倉庫建設に伴うもので、調査面積は330m<sup>2</sup>である。

**2. 調査概要** 今回の調査で検出された遺構面は4面あり、上層より第Ⅰ遺構面（12世紀末頃）・第Ⅱ遺構面（7～8世紀）・第Ⅲ遺構面（5～6世紀）・第Ⅳ遺構面（弥生時代中期）である。

**第Ⅰ遺構面** 掘立柱建物5棟・溝1条・土壙1基のほか、多数の柱穴が検出された。

**掘立柱建物** 全て地区外に延びているため、規模は不明。柱穴は直径約30cmの円形の握形をもち、柱径15～20cmを測る。柱穴内に、柱根・礎板が遺存しているものがみられた。

**第Ⅱ遺構面** 第Ⅰ遺構面の遺構検出中、調査区南半部において、南北約10mにわたって、咲状遺構（幅40cm、高さ15cm）が発見された。水田址の可能性が考えられる。

**第Ⅲ遺構面** 穫穴住居址4棟・溝4条・土壙3基を検出した。竪穴住居址の内1棟からは玉の未製品が多数出土しており、玉造工房址となる可能性が強い。

**竪穴住居址6** 一辺5.2mの方形プランを持つ竪穴住居址である。南北の壁際中央部にそれぞれ1個の小形土壙が付設されている。埋土中には土器の他、多量の玉造関連遺物が検出された。

**竪穴住居址7** 一辺5.4m、深さ15cmの方形竪穴住居址で、南東隅と北西隅に小形土壙を持つ。南東隅の土壙からは、土器類に混り滑石製白玉が出土している。

**第Ⅳ遺構面** 第Ⅳ遺構面は、北から南に向かって傾斜している。溝2条・竪穴住居址1棟・木棺墓1基・土壙2基が検出された。

**竪穴住居址10** 直径約8mの円形プランを持つ竪穴住居址である。深さ40cmを測り、周壁溝・中央土壙を持つ。3本の柱穴を確認した。

**溝6、7** 溝6は「く」字形の溝で屈曲部付近が浅く陸橋となる。溝7は幅1.6m、深さ60cmの溝で、溝6と平行している。両溝とも溝内から完形品を含む多量の土器が出土している。

**木棺墓** 長さ2.1m、幅0.9mの墓壙中央に、長さ1.7m、幅65cmの木棺を収めている。木棺は痕跡を残すのみで、棺内には人骨が比較的良好な状態で遺存していた。

**3. まとめ** 今回の調査では、弥生時代から鎌倉時代にいたる多数の遺構とともに多量の遺物が出土している。注目されるのは、第Ⅲ遺構面で検出された玉造工房址とその関連遺物の出土である。玉造工房址の発見は、全国的にも稀で、明石川流域の古墳時代研究に新たな視点を与えるものとなろう。

fig. 32 古墳時代遺構検出状況(北から)



fig. 33 弥生時代遺構検出状況(北から)

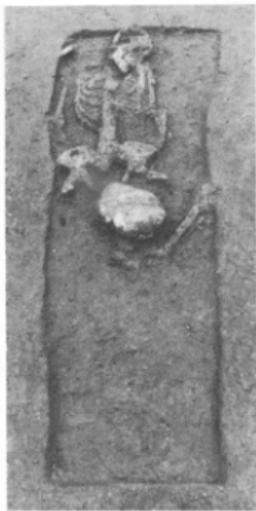


fig. 34 弥生時代木棺墓検出状況(東から)

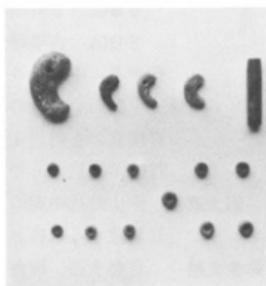


fig. 35 滑石製勾玉、白玉、管玉

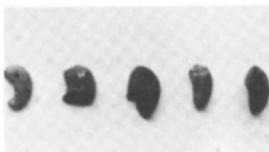


fig. 36 勾玉製作工程

## 12. 新方丁の坪遺跡

1. 調査経過 当遺跡は、山陽新幹線敷設時にその存在が確認され、その後、数次に渡る小規模な調査が実施されてきた。その結果、弥生時代前期から鎌倉時代に至るまで連続と続く大規模な遺跡であることが判明している。今回の発掘調査は、自動車販売店建設に伴うもので、4m×25mのトレンチ調査である。

2. 調査概要 調査区の両端は自然河川により区切られている。層位および出土遺構は、現水田面下1.1mに古墳時代（6世紀後半）の小規模な溝状遺構が存在し、それ以下に同時代（6世紀前半）の竪穴住居址、溝、弥生時代後期（第V様式）の竪穴住居址、土壙、溝、同時代中期（第III、IV様式）の土壙、土器群、同時代中期（第II様式）の竪穴住居址が層位を異にして存在した。なお第II様式の遺構検出面は、現地表下2.0mで、標高7.2m前後である。

**竪穴住居址 SB04** 弥生時代中期（第II様式）に属するもので、直径6.5m程度で円形を呈する。一度建て替えが行なわれているが、柱位置、中央ピットがわずかに動くだけで規模に変化はない。

**SB03** 弥生時代後期（第V様式）に属するもので、4.2×4.6mの長方形を呈し、現存の壁高は45cmである。周壁高は存在しない。

**SB02** SB03と同時期で、径4.5~5.0m程度の円形であろう。

**SB01** 古墳時代（6世紀前半）に属するもので、5.0×3.9mの長方形を呈する。中央よりやや西に偏する部分に焼土塊を含む土壙が存在する。

**土 壤** 上記のいずれの時期のものも出土しているが、弥生時代第III（新）および第IV様式のものが4基存在する。いずれも楕円形を呈し、長径1.0~1.8m、短径0.6~1.4mである。

3. 出土遺物 弥生時代中期の土器が最も多いが、特筆されるものとして、弥生時代の玉造に関連する遺物と銅鏡の出土があげられる。古墳時代須恵器は僅少であった。

**弥生土器** 壺形土器、脚台を有する土器が多く、夔形土器は少ない。特異なもののみ列挙すると、第II様式の紀伊産の夔形土器、第IV様式の注口土器、同時期の播磨的色彩の濃い台付鉢形土器等である。

**石 器** 弥生時代中期の石鎚、石錐、石匙、楔形石器、石庖丁、大型蛤刃石斧、砥石等が出土している。

**玉 類** SB02、03、04から管玉の製品、未製品およびすり切り施溝を有する石材が出土している。石材については鑑定を受けていないので不明である。

**銅 鏡** SB04から出土したもので、長さ38%、最大幅12%で、表裏とも凹凸が著しく刃部にも鋭さはない。

### 13. 史跡五色塚古墳

**1. 調査経過** 今回の調査は、神戸市営五色山住宅の建て替えに先立って五色塚古墳、小壺古墳の外縁施設を確認するために行った。市営五色山住宅が建設された昭和30年以前は、当該地は開墾され畠地となっていた。五色塚古墳の周囲に同心円状の一段高い土壇がめぐっていたといわれ、現在の市営住宅の街路にその痕跡が残っている。

**2. 調査概要 各トレンチの概要**

**Aトレンチ** 小壺古墳の北側に設定したトレンチ。トレンチ南端から約1mで南に向って落ち込む部分が検出された。落ち込み下部で葺石状の小石を検出した。さらにトレンチ中央北よりで幅5m、深さ70cmの溝を確認した。

**Bトレンチ** Aトレンチに並行して東側に設定したトレンチである。トレンチ南端から約1.5mで南へ落ち込む。落ち込みは深さ40cmで平坦となり、この平坦面には5cm大の礫が敷かれた状態で検出された。トレンチ中央で幅5m、深さ70cmの溝を検出した。

**D1トレンチ** 小壺古墳の墳丘裾と同濠を検出した。濠の立ち上がりは近年の擾乱のため確認できなかったが、推定上部幅5m、底部幅1.6m、深さ60cmで、外部にゆるやかに立ち上がっている。墳丘斜面には原位置を保っていない5cm大の礫がみられ、落下した葺石と考えられる。

**Eトレンチ** 小壺古墳の墳丘裾と同濠を確認した。周濠の上部幅は3m、底部幅1.4m、深さは中央で60cm、外側にゆるやかに立ち上がっている。埋土には埴輪片を含み墳丘側からの流れ堆積とみられる。墳丘斜面は、約35°の傾斜角をなす。墳丘斜面にはD1トレンチと同様に原位置を保たない5cm大の小石が見られる。

**G2トレンチ** トレンチ南端より8mで溝を検出。溝は幅3.1m、深さ48cmのU字溝である。盛土は表土直下にみられ、地山の緩斜面の上に20cm~40cm盛られている。溝の流入土内より結晶片岩及び円筒埴輪片が出土している。溝南側の盛土は五色塚古墳の外堤と考えられ、幅7m以上の規模があったと推定される。

**G3トレンチ** G2トレンチの東側2mに設定した。表土直下で原位置を保つ円筒埴輪基部を確認した。円筒埴輪は直径60cmを測る。円筒埴輪の西1.5mで円形の掘形があり、円筒埴輪の抜き取り痕跡と考えられる。

**3. まとめ** A・Bトレンチで確認した溝・落ち込みは小壺古墳の外堤周濠と考えられる。外堤周溝とすれば、極めて幅の狭いものとなる。D1・Eトレンチで検出した墳丘裾と周濠は現状の小壺古墳より突出しており、墳丘は低い造り出しをもつと考えられる。G2・G3トレンチで検出した五色塚古墳外堤は外側に周溝をもち、円筒埴輪列を完備するものと判明した。

## 14. 舞子古墳群東石ヶ谷1号墳

1. 環境　舞子古墳群は、神戸市垂水区舞子陵、舞子坂二丁目他に所在する。古墳群は舞子丘陵上に位置しその範囲は、東西1.2km、南北0.8kmである。

東石ヶ谷1号墳は、この古墳群のほぼ中央に位置し、標高80m前後の平坦な尾根上に築かれている。北から南へ伸びた尾根がやや西に屈曲する場所に位置し、尾根の先端には東石ヶ谷2号墳が存在する。

2. 墳形と規模　古墳は、南北約17m、東西約14mの南北に長い円形で、現存墳丘高は約1.6mである。周囲に堤をもち、西側の堤（幅1.5m深さ50cm）は深く明瞭であるが、北側は明瞭でない。

墳丘南西部では、須恵器甕の破片が集中して出土している。墳丘北西部では、箱式石棺状の埋葬施設が検出された。墳丘上に形成されているため、古墳築造後のものとみなされるが、出土遺物等がなく、時期・性格等は不明である。また、墳丘盛土中からは、多くの弥生土器片やサスカイト片が出土した。

石室　内部主体は、右片袖の横穴式石室である。袖部から羨道にかけての3石は、縦積で他は一部をのぞいて横積である。石室は持ち送りが見られ、側壁の現存高は床面より2mを測る。石室の規模は、玄室長5.5m・玄室幅1.5m・羨道長6.5m・羨道幅1.4m・袖幅10cmである。開口方向は南（N4°30'E）である。

石室床面直上には全面に炭が敷かれていた。この炭層の厚さは2~7cmあり、ほとんどが切り炭であった。石室内で火を焚いた形跡は認められない。炭層より少量の須恵器片・鉄片及び金環1点が出土した。

石室床面には、排水溝（幅30cm、深さ5cm）が堀り込まれ、排水溝は玄室の奥から石室外までのびていた（全長22m）。

出土遺物　遺物は、玄室奥壁東側から原位置をとどめた須恵器高环、甕、提瓶、土師器甕各1点、羨道入口床面から金環1点と須恵器甕、排水溝内からは甕、高环、甕の破片のほかガラス玉が1点出土した。

弥生時代　古墳の排水溝及び墳丘南側を検出中に、弥生時代住居址を発見した。住居址は直径7.5mの円形竪穴住居址で周壁溝をもつ。柱穴は6か所あり、比較的大形の住居址である。住居址北辺部は、古墳の下に及んでいるため未調査である。

住居址内より甕、甕、高环、器台等多くの弥生土器や叩き石と思われる石器も出土した。出土遺物より弥生時代後期の住居址と考えられる。

3.まとめ　出土遺物や石室の形態等から東石ヶ谷1号墳は、6世紀末頃の築造と考えられる。以前より舞子丘陵内で弥生土器片や石器は表採されていたが、今回のように住居址が検出されたことは、大きな意味をもつ。今後、この尾根上の弥生遺跡の拡がりを把握することが必要となろう。

fig. 37 古墳と弥生時代住居址全景（南から）



fig. 38 弥生時代住居址全景（北から）



fig. 39 石室内炭敷検出状況（南から）



fig. 40 玄室内遺物土状況

## 15. 宇治川南遺跡

- 1. 位置** 宇治川南遺跡は、神戸市中央区楠町1丁目に所在する。大倉山の東麓を宇治川が流れ、この川によって運ばれた堆積土上に遺構が存在している。
- 2. 経過** 昭和57年6月に住宅局から市営住宅建設工事に先立ち、埋蔵文化財存否の問い合わせがあった。昭和57年10月に機械による試掘調査を実施したところ、土器が出土し、遺構らしい土の落ち込みを確認し、遺跡が存在する可能性が大きくなつた。そのため、昭和57年11月から昭和58年3月まで人力による試掘調査を実施した。
- 調査の結果、弥生時代中期の溝、集石遺構、ピット、木棺直葬墓、縄文時代晩期・弥生時代前期の土器溢り等を検出した。
- 3. 弥生時代 溝** トレンチの北側で北西方向から東に向って流れていた自然流路である。
- の遺構** 溝は北側で幅40cm、深さ6cm、東側で幅60cm、深さ18cmである。
- 集石遺構** トレンチの北西部で、円形に小礫が集石されたところが検出された。規模は直径2mで、石の大きさはほとんどが3~10cmの小礫である。集石をはずし下部を調査したが、遺構を検出することはできなかつた。また、溝の西側で溝に平行な集石列が検出された。自然のものか人工的なものであるのか明らかにすることはできなかつた。
- ピット** ピットは直径5~10cmのものが多数検出された。このピットの性格は不明である。杭跡の可能性が高い。
- 木棺直葬墓** 47基を検出した。規模は大きいもので掘形長辺2m、短辺1.3m、小さななもので長辺1.3m短辺80cmである。棺址の規模は、大きいもので長辺1.4m、短辺40cm、小さいもので長辺1m、短辺30cmである。
- 4. 弥生時代の縄文時代の遺構** 縄文時代晩期・弥生時代前期の土器が混入した土器溢りを検出した。弥生時代前期の土器は新段階のもので、縄文時代晩期の土器は滋賀里Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ式のものである。
- 5. まとめ** このトレンチ以外にも、工事範囲内に再度人力による試掘調査を実施したところ縄文時代後期から鎌倉時代の土器が出土した。
- この試掘調査の結果をもとに、昭和58年度本格調査を実施する。宇治川南遺跡周辺には、縄文時代後期の土器が出土し、平安時代の大きな柱穴と壠跡が検出された神戸大学付属病院内の遺跡や弥生時代前期のピット・貯蔵穴群が発見された楠・荒田町遺跡が存在している。この地域は、神戸市内でも数少ない縄文時代の遺跡が存在し、平氏関係の人々の住居地であると考えられる神戸大学付属病院内の遺跡などが存在し重要な地点である。昭和58年度の宇治川南遺跡の調査に期待がもたれる。

fig. 41 宇治川南遺跡遠景



fig. 42 弥生時代集石遺構、溝



fig. 43 弥生時代木棺墓



## 16. 史跡処女塚古墳

1. 調査経過 史跡処女塚古墳の整備事業に伴う発掘調査を昭和54年度より実施している。

当初トレンチ調査によって墳形・規模を推定復元する予定であったが、墳丘流失が著しく、推定すら困難な状況であった。しかし、前方部東側中段根石列と北西部墳丘裾の葺石が残存しているのを確認している。今まで墳形は前方後円形と考えていたが、北西部で確認した葺石によって前方後方形である可能性が大となった。そのため今回は後方形の追証と、前方部東側裾部の検出を目的として発掘調査を実施した。

2. 調査概要 後方形を確認するために西側斜面のほぼ全面を調査したが、攪乱、流失が著しく、段築、葺石は検出されなかった。段築面と推定される傾斜変換が一部認められたが、余り明瞭ではない。

前方部については、東側下段根石列及び斜面葺石の一部を検出した。西側についても根石列及び斜面葺石が検出されたが、中段部分はほぼ完全に削平されていた。

**出土遺物** 前方部西側裾付近から転落石に混ってスタンプ文をもつ土器片が若干出土している。同じく転落石の上面からは古墳時代須恵器が数点出土している。後方部北側斜面からもスタンプ文を施す土器片が出土している。

これまでの調査では、スタンプ文をII縁部と肩部に施す二重口縁形の壺形土器が数個体分と、底部穿孔二重II縁壺形土器1個体が出土している。個体数は少なく、くびれ部及び前方部端段築面に集中している。

3. まとめ 今年度調査の結果、前方部の東西両裾部が確認された事によって、ほぼ確実な中心線が設定された。後方部については残存状態が悪く、昨年度以上の積極的な資料を検出する事はできなかった。しかし、墳形は残りのよい西北部の墳丘等高線から後円形である可能性は極めて薄く、後方形であると考えられる。

また段築は、盛土の版築状態の変化から後方部は3段と推定される。よって前方部2段、後方部3段の全長70mの前方後方墳で、墳丘大半は盛土によって築かれ、円筒埴輪などの定型化した外部施設を持たない古墳と考えられる。

埋葬施設と推測される礫帯を後方部中心線上のやや前方部寄りで検出している。推定長13m、幅2m、礫帯の幅は50cm前後を測る。天井石は存在しないが、盜掘拠も見当らない。

当古墳の築造時期については、外観の諸要素からかなりの古相が読みとれる。来年度より、これまでの調査データを基に墳丘整備を実施する予定である。

fig. 44 前方部西側斜面  
全景（北から）



fig. 45 前方部西側下段  
根石列



fig. 46 前方部東側  
下段根石列



## 17. 郡家遺跡

- 1. 調査経過** 郡家遺跡の発見は、昭和54年4月神戸市東灘区御影町郡家大蔵で、奈良時代の掘立柱建物・土壙・溝が検出されたことに始まる。これらの発見と郡家大蔵の地名から、本遺跡は古代菟原郡衙の所在地と推定されている。また、郡家大蔵地点の下層からは、古墳時代及び弥生時代の遺物が出土し、周辺にこの時代の遺跡が存在していると思われる。今回の調査は、遺跡を北東から南西に貫流する天神川の河川改修工事に伴って実施した。調査地は昭和54年に調査を実施した郡家大蔵地点の西側50mに位置している。調査面積は約160m<sup>2</sup>である。
- 2. 調査概要** 調査の端緒は、河川改修工事中に弥生時代の遺物包含層を発見したことによる。調査地北壁断面で観察した土層の層序は盛土（地表下60cm）、旧耕土、床土、奈良時代の遺構面（地表下1.2m）と続き、その下層に古墳時代の土器・弥生土器を含む遺物包含層、弥生土器のみを含む単純な遺物包含層、弥生時代の遺構面となっている。奈良時代の遺構面から柱掘形1か所、弥生時代遺構面で河川状遺構3か所・溝1条を検出した。
- 柱掘形** 調査地北端部で検出した方形の掘形（1辺1.0m 深さ50cm）である。掘形の南よりに直径25cmの円形の柱痕跡を検出した。
- 溝 1** 調査地中央北よりに検出したコ字形の溝（幅80cm、深さ20cm）で、溝の断面はU字形を呈する。西側は直線的に掘り込まれ、北と南で屈折している。北側屈折部上層で弥生土器群が出土し、南側屈折部でも直径60cm大の河原石下に弥生時代末の甕形土器完形品が出土している。
- 溝1は、屈折部に土器が集中している点、平面形が正方形を示す点から一辺約7.0mの方形周溝遺構と考えられる。
- 河道 1** 調査地西北から南東方向に流れる自然流路（幅1m、深さ60cm）である。南部の上層で河原石の堆積がみられる。河川底から弥生土器が出土している。
- 河道 2** トレンチ北東部を北西から南東方に流れる自然流路である。白色砂が堆積し埋土から須恵器、弥生土器が出土している。
- 河道 3** トレンチ北西部を西から東に流れる自然流路である。東側は河道2によって切られている。幅2m、深さ40cmである。埋土より弥生土器が出土している。
- 3. まとめ** 今回の調査においては、建物址の遺構は柱掘形1か所を検出したにすぎず、遺構本体を検出できなかった。しかし、遺跡がかなり広範囲にわたって広がっていることを確認した。また下層からは古墳時代と弥生時代末期～古墳時代初頭の遺構・遺物包含層を検出した。このことは、付近に同時代の遺跡が存在するという第1回調査の予想を裏付けることになった。

fig. 47 調査地全景  
(北から)



fig. 48 調査地全景  
(南から)

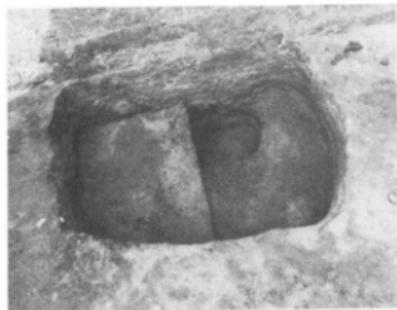


fig. 49 掘立柱掘形



fig. 50 方形周溝南隅上器出土状況

## 18. 東求女塚古墳

1. 調査経過 東求女塚古墳は、神戸市東灘区住吉宮町1丁目に所在している。当該地は、現在遊喜幼稚園や求女塚東公園となっており、地表から古墳の原形を窺うことは出来ない。公園内の中央マウンドが、後円部の形跡をとどめているといわれるが、定かでない。

今回、遊喜幼稚園の園舎の改築工事に先立ち、東求女塚古墳の残存状況を探るため調査を実施した。調査面積は1,200mである。

2. 調査概要 園舎改築部にL字形のトレンチを設定し調査した。地表から1.2m下までは、近年の盛土・攪乱によって荒されていたが、それ以下では、古墳の盛土・葺石などが残存していた。検出された遺構は、前方部北側・西側墳丘裾、周濠・西側外堤である。

**墳丘裾** 前方部西側の墳丘裾は、若干「く」の字状に折れ曲り（検出長36m）、北から南に向って傾斜（比高差1m）している。前方部北側の墳丘裾は、北西から南東へ一直線にのびる（検出長30.2m）。前方部北西隅の先端角度は80°である。

**葺 石** 蓐石は、径約40cmの花崗岩の川原石を横積みにし（前方部北側は一部縦積み）、その上に径約10cmの石を小口積みにしている。葺石の傾斜角は70°～80°で、根石から0.8～1.0mの高さまで残存していた。

**周濠と外堤** 前方部西側で周濠と外堤が検出された。周濠は、幅10～13m、深さ0.8～1.0mで、外堤には貼石等の施設はない。前方部北側の調査区内では、外堤は確認されず、周濠幅は14m以上になるものと思われる。周濠内には、黒色粘土が堆積し、滲水していたことを示している。

**墳丘 盛 土** 古墳の墳丘部は攪乱が著しく、盛土は60cm程残存しているのみであった。

3. 出土遺物 周濠内に存在した平安・鎌倉時代の遺物包含層から、須恵器捏鉢・甕・壇・土師器小皿・壺・羽釜・黒色土器の破片が出土し、葺石上や周濠内から古墳時代の須恵器壺・壠・土師器甕が出土している。須恵器は6世紀後半、土師器は5世紀後半のもので、古墳築造年代と直接結びつくものではない。なお、墳丘盛土内から弥生土器（IV様式）が出土している。埴輪は出土していない。

4. ま と め 今回の調査の結果、東求女塚古墳は、地下にお良好な状態で保存されていることが明らかになった。古墳は西北西に主軸をとる前方後円墳で、規模は全長約80m、周濠を含めると100mを超えるものと思われる。これまで、出土遺物から4世紀後半の古墳と考えられてきたが、前方部幅が広く、周濠をもつ点などから5世紀代の古墳の特徴も指摘できる。

当古墳の年代的意置づけにつきては、今後更に検討して明らかにする予定である。



fig. 51 東求女塚古墳全景（上方の円形の木立が後円部の一部）



fig. 52 東求女塚古墳前方部西側墳丘掘と刷滌

## 19. 森北町遺跡

1. 調査経過 森北町遺跡は芦屋川の右岸に存在し、弥生時代後期前半の高地性集落遺跡・会下山遺跡の所在する丘陵端にひろがる遺跡である。

昭和39年に森北町23番地で多量の弥生土器片が発見され、森北町遺跡の存在が明らかにされた。遺跡は森稻荷神社を中心にして東西300m、南北250mの範囲に及ぶと考えられる。

今回の調査は、神戸市東灘区森北町4丁目18番における日本放送協会東灘世帯寮新築工事に先立って行った。調査面積は約200m<sup>2</sup>である。

2. 調査概要 今回検出した遺構は、調査地南辺で中世（鎌倉時代後半）の東西溝1条、弥生時代中期の溝状遺構6条である。

溝 1 調査地の南辺沿いに走る東西溝である。断面形はロート状を呈する。溝幅は上面で約2.5m、下面で20cm～40cm、深さ約1.5mを測る。溝内からは鎌倉時代後期の土師器皿・瓦器塊・須恵器片が出土している。計画的に掘削された可能性がある。

溝 2 断面形はU字形、幅1.3m、深さ40cmのL字形に折れ曲がる溝で、溝内埋土上層より弥生時代壺形土器片（櫛描文土器）が出土している。

溝 3 幅1.1m、深さ30cmのU字溝で、溝内の埋土より弥生土器が出土している。

溝 4 南側を溝3によって切られる断面U字形の溝。幅0.7m、深さ20cmを測る。溝内埋土から弥生土器の小破片が出土した。

溝 5 幅1.7m、深さ40cmのL字形に曲がる溝である。溝のコーナー部で弥生時代の壺形土器4個体が集積した状態で出土した。

溝 6 幅1.7m、深さ30cmのL字形に折れ曲がる断面U字形の溝である。溝のコーナー部で弥生時代の壺形土器1個体と石器が出土している。

3. 出土遺物 出土遺物は、溝5土器群（壺形土器4・器台形土器1）、溝6コーナー部出土壺形土器1と溝2出土櫛描文土器片などの弥生土器と溝1出土瓦器等の中世土器などがある。

4. まとめ 今回の調査では、鎌倉時代の溝1条、弥生時代の溝5条を検出した。鎌倉時代の溝は、東西に計画的に開削された溝と考えられる。

弥生時代の溝は、調査範囲が限定されたこと、後世の擾乱などによって遺構の性格を明らかにすることはできなかった。しかしながら、溝2がL字形にめぐり、溝3と切り合っておらず共存する点から、方形周溝墓の可能性が考えられる。また、溝5・溝6のコーナーにおいて土器が集中して出土した状況は、方形周溝墓でみられる土器供獻の出土状況と近似している。出土土器の形態から溝5・溝6の時期は、畿内第Ⅲ様式新段階と考えられる。

fig. 53 調査地全景（東から）



fig. 54 溝1（東から）



fig. 55 溝4土器出土状況



## ほくしん 20. 北神ニュータウン（北神戸3地区）内遺跡

昭和57年度の北神ニュータウン（北神戸3地区）内埋蔵文化財調査は、第1地区内で第47地点遺跡、鹿の子遺跡の発掘調査と第4地点遺跡古墳参考地の試掘調査、第2地区内では長野谷地区的試掘調査、第3地区内では第28地点と雨堤地区的試掘調査を実施した。試掘調査を実施した5地点のうち、弥生時代中期集落址の第4地点遺跡を除き、遺構、遺物は発見されなかった。

### 第47地点遺跡

1. 調査経過 第47地点遺跡は、神戸市北区道場町下部に位置する。昭和56年度に、古墳参考地として試掘調査を実施した。その結果、古墳の存在は確認されなかつたが試掘トレンチ南端から火葬墓址一基が検出された。このため、第47地点の尾根全体について発掘調査を実施した。

立地 第47地点は、同様の火葬墓址群を検出した第46地点と同じように、東方に広がる塩田盆地からは望むことのできない、西方に開口する谷筋奥部に立地している。

2. 調査概要 今回の調査範囲1,600m<sup>2</sup>から57基の火葬墓址を検出した。これらの検出墓址を形態的に分類すると、下記のように3種類8形態に分類できる。

火葬墓址 I. 円形——a. 大型3例 b. 小型11例 (fig. 61)

II. 長方形（座棺用）——a. 棺台石ナシ16例 (fig. 63)

b. 棺台石1個3例 (fig. 58)

c. 棺台石2個13例 (fig. 57)

d. 棺台石3個7例 (fig. 59)

e. 棺台石数きつめ3例 (fig. 56, 62)

III. 長円形（伸展用）1例 (fig. 60)

長方形の形態をもつものの大きさは、1.1×0.75m前後の規格性が認められる。

出土遺物 出土遺物には、人骨片・珠・土師器・鉄釘・古銭がある。出土古銭には、至道元宝（北宋錢・995年初鑄）・洪武通宝（明錢・1368年初鑄）が含まれる。

出土した古銭や土師器の形態から、これら火葬墓址群の造営年代は、14～15世紀と考えられる。

3. まとめ 第46・47両地点は同じような立地条件を備えた場所に占地しているが、近接しながら別々の墓域を選んでいる。相方の造営主たちの生活の場は、塩田盆地内にあったと考えられるが、このように別々の地に彼らの墓域を選んだ事実は、血縁集團が異なる事を示していると思われる。



fig. 56 火葬墓ST 1



fig. 57 火葬墓ST 3



fig. 58 火葬墓ST 9、10



fig. 59 火葬墓ST11



fig. 60 火葬墓ST23

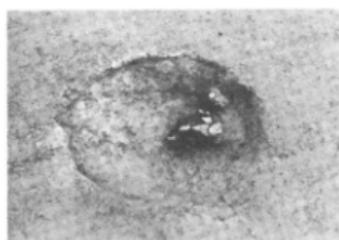


fig. 61 火葬墓ST31



fig. 62 火葬墓ST33



fig. 63 火葬墓ST37

## 鹿の子遺跡

**1. 調査経過** 鹿の子遺跡は、有馬川の支流長尾川の南岸、南北に細長く展開する支谷（通称鹿の子谷）に位置している。昭和56年秋、北神ニュータウン第1地区造成工事に伴って鹿の子谷が調整池として選定されたため、試掘調査を実施した結果、須恵器片・土師器片を探集し、遺物包含層・遺構を確認した。

昭和57年7月、試掘調査結果から、遺物散布の濃厚な中国自動車道より南側地域について、本格的な調査を実施した。

**2. 調査概要** 調査地は鹿の子川の左岸の比較的広い河岸段丘にあたる東西54m、南北46mの約2,500m<sup>2</sup>である。

検出遺構は、比較的削平を蒙っていないトレンチ西部で掘立柱建物1棟、土壙、トレンチ東端で柱穴群、中央部で西から東北方向に流れる溝2条と土壙墓1基を確認した。

**堀立柱建物** N16°Wに棟方向をおく梁間2間、桁行3間以上の南北棟建物である。柱間寸法は桁行で2.6m等間、梁間西側では3.0m東側で2.6mで東柱が東にやや偏している。東側の桁柱は、南へ約60cmに柱掘形を設け、1回建てかえられたと推定される。

**土 壙** 堀立柱建物の検出面のほぼ中央で検出した梢円形の土壙である。長径2.3m、短径1.4m、深さ5cmの浅い舟底状をしている。土壙内からは、須恵器壺・壇・皿・土師器片が出土している。

**東部柱穴群** 32カ所の柱穴を確認したが、建物としてまとまるものはない。

**土 壙 墓** 河岸段丘の中央斜面、調査地の北により位置する。長梢円形の掘形に、長方形の箱形棺を埋置する。掘形は長径5.0m、短径1.8m、深さ30cmを測り、高位の北側は肩くずれがみられる。棺は掘形のやや南よりに埋置される。棺の長さ3.2m、幅1.0m、深さ12cm、棺底はわずかに東から西に傾斜し、棺の長軸は、N59°Wである。掘形西北隅に須恵器壺・壇・頭部を欠損した瓶胴部を埋置している。

**溝** 調査地の西北部を東南流する溝、幅1.1m～1.2m、深さ45mの断面V字形の溝で、埋土内より須恵器壺身1点が出土している。

**3. まとめ** 今回の発掘調査において、中世掘立柱建物と土壙墓を確認した。掘立柱建物廃棄直後の埋没と考えられる土壙から出土した須恵器は、土壙墓供獻須恵器より古い様相を呈し、当地が集落として用いられた後、集落が移動、墓域として選地されたものと推定される。その年代は13世紀前葉～14世紀前葉と考えられる。

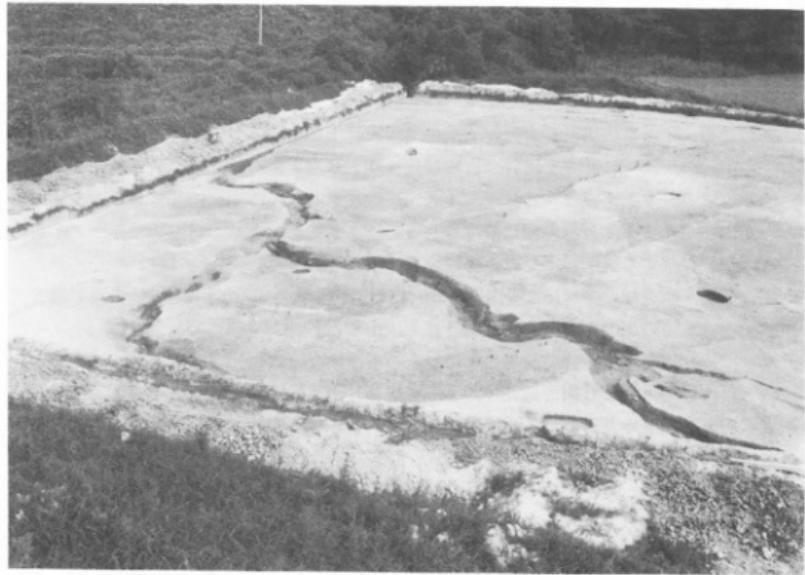


fig. 64 調査地全景（西から）



fig. 65 東部柱穴群（北から）



fig. 66 土壇臺（東から）

## 21. オキダ古墳群

1. 調査経過 オキダ古墳群は有野川右岸の河岸段丘上に位置している。オキダ古墳群の南の畠地にはオキダ遺跡（古墳時代後期・鎌倉・室町時代遺物散在地）が存在する。オキダ古墳群は口下部地区土地改良事業区域の南に接しており、支線道路がオキダ1号墳の裾に設けられる計画となっていた。このため、オキダ1号墳に接する箇所にトレンチを設定して調査を行った。
2. 調査概要 調査地の序層は、耕作土・床土・中世遺物包含層・地山となり、地山面で横穴式石室の掘形と溝、中世土壤5基を検出した。  
溝 調査地南西部で長さ3mにわたって検出した。幅1.8m、深さ40cmを測る。埋土上層より須恵器高坏、また溝肩より須恵器坏身が出土している。  
横穴式石室 調査地北東部から中央部にかけて上部を欠失した横穴式石室を検出した。掘形は長軸10m以上、短軸3.5m、形態は右片袖状を呈する。石室は、側壁は破砕されたり抜き取られて原位置を保つものはないが、奥壁は中央の1石が原位置を保っていた。玄室床面は上面に5cm大の栗石、径20cm大の偏平な河原石を敷きつめる。玄室規模は主軸長5.5m、幅1.8mを測る。  
床面での遺物の出土状況は奥壁隅で須恵器坏身・台付長頸壺・鉄鎌・鉄釘・刀子片ミニチュア土器。左側壁に沿って直刀3振・刀子・鎌・鉄鎌。床面中央では、須恵器坏蓋・土師器高坏・金環が出土している。  
羨道部は石材の据え付け痕跡が6カ所確認され、羨道部幅は玄門で1m、羨門で80cmを測る。羨門部で無蓋高坏・斐形土器が破碎されて出土した。  
以上の調査の結果、石室の規模は主軸全長8m、玄室長5.4m、幅1.8mを測る右片袖の横穴式石室と考えられる。今回発見された古墳を、今後オキダ2号墳と呼ぶことにする。
3. まとめ 発掘調査と並行してオキダ1号墳の現状測量調査を行った結果、規模15m前後の円墳及至方墳であり、トレンチ調査で検出したオキダ2号墳とほぼ墳丘を接して築かれたと考えられる。  
横穴式石室の使用時期は、長脚二段無蓋高坏の時期（6世紀中葉）から奥壁中央出土の有蓋台付長頸壺の蓋の時期（7世紀初頭）までの期間と考えられる。その間、床面の敷石は1度以上改修されたものと考えられる。  
なお、現地は農政当局の協力により、埋め立てて現状保存されることになり、床面下層の精査、墳丘規模の確認は行わなかった。

fig. 67 オキダ2号墳  
石室全景(東から)



fig. 68 オキダ2号墳  
石室全景(西から)



fig. 69 オキダ2号墳  
石室近景(北から)



## 22. 日下部遺跡

1. 調査経過 日下部遺跡は、神戸市北区道場町日下部に位置する。昭和57年度から圃場整備事業が実施されることになり、それに先立ち発掘調査を実施した。

今年度調査地は、六甲山系より北へ細長く派生した標高200m前後の低丘陵北端から、東側の国道176号線と西側の主要県道神戸・三田線が交差するまでの三角地約4.4haである。

2. 調査概要 調査地内に2×2mの試掘 sondage (以下T.P.と略称) 48か所とトレンチ5本を設定して調査した。

T.P. 40, 42, 62からは溝を各1条づつ検出したが、遺物はなく、時期・性格等不明である。またT.P. 50から変形したピットを1か所検出した。柱穴が2個重なっている可能性もある。時期は不明。遺物の出土量は少量であった。

**第1トレンチ** T.P. 7の北側に設定した2×20mのトレンチ。表土下70cmで柱穴を数個検出した。まとまった建物にはならなかったが、小さな掘立柱建物が数棟建っていた可能性が考えられる。またトレンチの隅から浅い土壌を1基検出した。柱穴の掘形内や土壌内からの出土遺物は少ないが、土壌は11~12世紀、柱穴群は12~13世紀頃のものと思われる。更にその下層から径6.5mのやや弧を描く住居址様の落ち込みを検出した。床面から炭を多く検出したが、周壁溝や柱穴は検出されなかった。弥生土器か土師器か判別しにくい土器の細片が若干出土している。

**第2トレンチ** T.P. 10の東側に設定した2×15mのトレンチ。表土下50cmで地山面となり、この面で多くの柱穴や溝を検出した。遺物は、ほとんど出土していないが、第1トレンチと同時期の12~13世紀頃と思われる。

**第3トレンチ** T.P. 17の北側に設定した2×10mのトレンチ。土壌が2か所検出されたのみで、T.P. 17で検出した溝は確認されなかった。

**第4トレンチ** T.P. 17の南側に設定した2×8mのトレンチ。T.P. 17とは別に、斜に走る溝1条と浅い土壌2か所、柱穴3個を確認した。時期は不明でT.P. 17で検出された落ち込みは溝ではなく土壌の可能性が強い。

**第5トレンチ** T.P. 24の東側に設定した2×8mのトレンチ。幅70cm、深さ25cmの溝1条を確認したが、出土遺物は皆無で時期は不明である。

3. まとめ 今回の調査の結果、T.P. 29からT.P. 72を結ぶ線より西側には遺構はほとんどなく、この線より東側の地山が高くなっている部分にかけて遺構が存在している。しかし、遺物の出土状況、遺構の検出状況から見て、小規模でしかも短期間の遺跡と思われる。

## 23. 塩田遺跡

**1. 環境** 塩田遺跡は、北区道場町塩田に所在する。圃場整備に先立つ発掘調査事業で56年度より試掘調査を行ない、今年度はその本調査を実施した。調査地は、北流する有馬川・有野川・八多川と東流する長尾川の合流点より東南約1kmの地点で、丘陵裾部の圃場である。

調査は、前年度の試掘調査の結果、遺物包含層の確認された圃場を中心に2か所のトレンチを設定して行なった。

### 2. 調査概要

**1 トレンチ** 土層の基本層序は上層から、耕土、床土、盛土、中世遺物包含層、地山（中（3m×20m）世遺構面）となる。近世遺構は中世包含層を切り込んで形成されている。

近世遺構として井戸4基、水路状遺構（幅3m、深さ30cm）土壤2基が検出された。近世の井戸から遺物は出土しなかった。溝や土壤の埋土内からは、近世陶磁器が数点出土した。

中世遺構として10数ヶ所のピットが検出された。しかし建物等の性格づけはできなかった。遺物包含層が薄かったため、出土遺物は少量であった。

**2 トレンチ** 土層の基本層序ならびに遺構、遺物の検出状況は1トレンチとほぼ同様である（8m×25m）った。

**近世遺構** 井戸もしくは水溜めと考えられる遺構と溝を切って近世の井戸3基が検出された。

**中世遺構** 中世の遺構は土壤とトレンチ南端で検出されたピット群である。ピット群は建物等としてはまとまらなかった。

**弥生時代遺構** 3条の溝が検出された。1条の溝は幅5m、深さ1mの北流する溝で、中から弥生土器の細片と石庵丁1点が出土した。他の2条の溝は、各幅50cm、深さ20cmで中から弥生時代中期の甕と甕片が出土した。

**3. まとめ** 調査当初は中世遺構の存在が予想されたが、包含層も薄く、遺構も希薄であった。地形から判断すると背後に山がせまり、高所に位置するこの山裾周辺は中世遺跡の立地として適しており、付近に遺構の存在が予想される。

また、この地点で弥生時代中期の遺構・遺物が発見されたことは、塩田地区では初見のことと注目に値する。北神ニュータウン内遺跡でも同時期の遺跡が発見されており、塩田地区との関連性や、武庫川流域の同時期の遺跡との関連性などを考察するうえできわめて重要な資料を提示したといえる。

昭和57年度 埋蔵文化財発掘調査担当者一覧表

番号	遺跡名	調査担当者	番号	遺跡名	調査担当者
1	西神ニュータウン内遺跡	菅本 宏明	16	史跡姫女塚古墳	千種 浩
2	西神中央線内長谷遺跡	宮本 郁雄 丸山 澄	17	郡家遺跡	西岡 巧次
3	如意寺	西岡 巧次	18	東求女塚古墳	渡辺 伸行
4	神出古窯址群	丹治 康明	19	森北町遺跡	西岡 巧次
5	西戸田遺跡	口野 博史	20	北神ニュータウン内遺跡	丸山 澄 西岡 巧次 森田 稔
6	小寺遺跡	森田 稔	21	日下部遺跡	宮本 郁雄
7	頭高山遺跡	宮本 郁雄 菅本 宏明	22	オキダ古墳群	西岡 巧次
8	居住遺跡	口野 博史	23	福田遺跡	口野 博史
9	尼住・小山遺跡	千種 浩	24	池谷遺跡	森田 稔
10	今津遺跡	千種 浩	25	尼住遺跡	丸山 澄
11	新方遺跡	丹治 康明	26	今津遺跡	丸山 澄
12	新方丁の坪遺跡	丸山 澄	27	松野遺跡	菅本 宏明
13	舞子古墳群東石ヶ谷1号墳	口野 博史	28	日下部遺跡	丹治 康明
14	史跡五色塚古墳	西岡 巧次	29	奥戴寺址	森田 稔
15	宇治川南遺跡	奥山 哲通			

1. 本書は、Ⅰ. 神戸の文化財行政。Ⅲ. 昭和57年度埋蔵文化財事業概要を渡辺伸行、Ⅱ. 昭和57年度文化財事業概要を池野素子、各遺跡の概要を上記の各調査担当者が分担して執筆し、校正を奥田哲通、渡辺伸行、編集を渡辺伸行が担当して作成した。

2. 表紙写真は重要文化財如意寺三重塔である。

## 昭和57年度 神戸市文化財年報

---

昭和59年3月25日 印刷

昭和59年3月31日 発行

発行 神戸市教育委員会

神戸市中央区加納町6丁目5番1号

印刷 (有)アローア印刷

神戸市中央区柏生町4丁目4番13号

TEL.神戸(078)371-3831

---